	昭和61年2月22日農林水産省告示第 284号	施行	昭和61年3月25日
			この間31回改正
改正	平成26年9月1日農林水産省告示第1146号	施行	平成26年10月1日
改正	平成27年1月9日農林水産省告示第 52号	施行	平成27年2月8日
改正	平成28年1月8日農林水産省告示第 41号	施行	平成28年2月8日
改正	平成28年3月30日農林水産省告示第 884号	施行	平成28年4月1日
改正	平成28年12月19日農林水産省告示第2535号	施行	平成29年1月18日
改正	平成29年10月16日農林水産省告示第1549号	施行	平成29年11月15日
改正	平成30年1月22日農林水産省告示第 134号	施行	平成30年2月22日
改正	平成30年3月6日農林水産省告示第 455号	施行	平成30年4月5日
改正	平成30年9月5日農林水産省告示第1991号	施行	平成30年10月5日
改正	平成31年4月26日農林水産省告示第 807号	施行	平成31年5月27日
改正	令和元年6月21日農林水産省告示第 455号	施行	令和元年7月1日
改正	令和2年2月28日農林水産省告示第 401号	施行	令和2年4月1日
改正	令和2年5月11日農林水産省告示第 939号	施行	令和2年6月11日
改正	令和2年10月30日農林水産省告示第2126号	施行	令和2年12月1日
改正	令和3年6月14日農林水産省告示第1010号	施行	令和3年12月1日
改正	令和4年2月15日農林水産省告示第 302号	施行	令和4年3月17日
改正	令和5年9月1日農林水産省告示第1053号	施行	令和5年10月1日
改正	令和6年7月10日農林水産省告示第1360号	施行	令和6年8月9日
改正	令和7年8月28日農林水産省告示第1299号	施行	令和7年9月27日

肥料の品質の確保等に関する法律に基づき普通肥料の公定規格を定める等の件

#### 一 窒素質肥料(有機質肥料(動植物質のものに限る。)を除く。)

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
硫酸アンモニア	ー アンモニア性窒素	アンモニア性窒素の	
	20. 5	含有率1.0%につき	
	二 アンモニア性窒素	硫青酸化物 0.01	
	のほか可溶性硫黄を	ひ素 0.004	
	保証するものにあつ	スルファミン酸 0.01	
	ては、一に掲げるも		
	ののほか		
	可溶性硫黄 1.0		
塩化アンモニア	アンモニア性窒素 25.0		

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
硝酸アンモニア	アンモニア性窒素 16.0		
	硝酸性窒素 16.0		
硝酸アンモニアソーダ肥料	ー アンモニア性窒素	アンモニア性窒素及	
	9.0	び硝酸性窒素の合計	
	硝酸性窒素 9.0	量の含有率1.0%につ	
	二 アンモニア性窒素	き	
	及び硝酸性窒素のほ	ひ素 0.004	
	かく溶性ほう素又は	亜硝酸 0.04	
	水溶性ほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	く溶性ほう素につい		
	ては 0.05		
	水溶性ほう素につい		
	ては 0.05		
硝酸アンモニア石灰肥料	ー アンモニア性窒素		
	10.0		
	硝酸性窒素 10.0		
	二 アンモニア性窒素		
	及び硝酸性窒素のほ		
	かアルカリ分又はく		
	溶性苦土を保証する		
	ものにあつては、一		
	に掲げるもののほか		
	アルカリ分について		
	は 10.0		
	く溶性苦土について		
	は 1.0		
硝酸ソーダ	硝酸性窒素 15.5		
硝酸石灰	一 硝酸性窒素 10.0	硝酸性窒素の含有率	
	二 硝酸性窒素のほか	1.0%につき	
	可溶性石灰、く溶性	亜硝酸 0.04	
	石灰又は水溶性石灰		
	を保証する場合にあ		
	つては、一に掲げる		

肥料の種類	含有すべき主成分	か最	含有を許され	る有害	その他の制限事項
	小量 (%)		成分の最大量	(%)	
	もののほか				
	可溶性石灰につ	ついて			
	は	1.0			
	く溶性石灰につ	ついて			
	は	1.0			
	水溶性石灰につ	ついて			
	は	1. 0			
	硝酸性窒素	10. 0	硝酸性窒素の	含有率	
FIJEX EL TENOT	水溶性苦土	15. 0	1.0%につき	ы 17 т	
	/\\rac{1}{1} \( \frac{1}{1} \)	10.0	亜硝酸	0.04	
   腐植酸アンモニア肥料(石炭	アンモニア性窒素	4 0	アンモニア性		
スは亜炭を硝酸又は硫酸で分	プラピー/ 仕里米	4.0			ないもののうち、1%
解し、アンモニアを加えたも			ひ素	0.004	の水酸化ナトリウム液
かをいう。)			亜硝酸	0.004	に溶けるものが当該肥
(maring)			<b>业</b> .明 俊	0.04	,
					料に50%以上含有され
					ること。
					二 硫酸塩は、10%以下
					であること。
尿素	室素全量	43.0	窒素全量の含	含有率	
			1.0%につき		
			ビウレット性窒	<b>医素</b>	
				0.02	
アセトアルデヒド縮合尿素	窒素全量	28.0	窒素全量の含	含有率	尿素性窒素は、3.0%以
(2-オキソ-4-メチル-6-ウレ			1.0%につき		下であること。
イドヘキサヒドロピリミジン			ビウレット性窒	<b>医素</b>	
をいう。)				0.02	
イソブチルアルデヒド縮合尿	窒素全量	28.0	窒素全量ので	含有率	尿素性窒素は、3.0%以
素(イソブチリデンジウレア			1.0%につき		下であること。
をいう。)			ビウレット性窒	<b>医素</b>	
				0.02	
硫酸グアニル尿素	窒素全量	32.0	窒素全量の	含有率	一 ジシアンジアミド性
			1.0%につき		窒素は、窒素全量の
			ひ素	0.004	10.0%以下であるこ
					と。
					二 グアニジン性窒素
					は、窒素全量の5.0%
L	<u> </u>				

肥料の種類	含有すべき主成	分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)		成分の最大量(%)	
				以下であること。
オキサミド	窒素全量	30.0	窒素全量の含有率	尿素性窒素は、3.0%以
			1.0%につき	下であること
			ビウレット性窒素	
			0.02	
石灰窒素	窒素全量	19.0		ジシアンジアミド性窒素
	アルカリ分	50.0		は、窒素全量の20.0%以
				下であること。
グリオキサール縮合尿素(テ	窒素全量	38.0	窒素全量の含有率	尿素性窒素は、3.0%以
トラヒドロイミダゾ-(4, 5-d)			1.0%につき	下であること
-イミダゾール-2, 5(1H, 3H)-			ビウレット性窒素	
ジオンをいう。)			0. 02	
ホルムアルデヒド加工尿素肥	一 窒素全量	35.0	窒素全量の含有率	一 水に溶ける窒素が窒
料(尿素にホルムアルデヒド	二 窒素全量の	ほか水	1.0%につき	素全量の50%以上のも
を加えたものをいう。)	溶性ほう素を	保証す	ビウレット性窒素	のにあつては、尿素性
	るものにあつ	ては、	0. 02	窒素は20%以下である
	一に掲げるも	ののほ		こと。
	カュ			二 一以外のものにあつ
	水溶性ほう素	0.05		ては、窒素の活性係数
				が40%以上であるこ
				と。
メチロール尿素重合肥料	窒素全量	25.0	窒素全量の含有率	一 500マイクロメート
(尿素にホルムアルデヒドを			1.0%につき	ルの網ふるいを全通す
加えて生成したメチロール尿			ビウレット性窒素	ること。
素縮合物を重合したものをい			0.02	二 熱水で溶出する窒素
う。)				の量は窒素全量の4%
				以上16%以下であるこ
				と。

## (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量(%)	成分の最大量(%)	
被覆窒素肥料(窒素質肥料又	一 窒素全量、アンモ	窒素全量、アンモニ	一 窒素は、水溶性で
は副産肥料(専ら原料規格第	ニア性窒素、硝酸性	ア性窒素、硝酸性窒	あること。
二中一の項から五の項までに	窒素又はアンモニア	素又はアンモニア性	二 窒素の初期溶出率
掲げる原料を使用した肥料で	性窒素及び硝酸性窒	窒素及び硝酸性窒素	は、50%以下である

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
あつて、窒素を保証し、りん	素の合計量のいずれ	の合計量のうち最も	こと。
酸及び加里を保証しないもの	かーについて 10.0	大きいものの含有率	三 と畜場(と畜場法
に限る。)を硫黄その他の被	二1 アンモニア性窒	1.0%につき	(昭和二十八年法律
覆原料で被覆したものをい	素を保証するもの	硫青酸化物 0.01	第百十四号) 第三条
う。)	にあつては	ひ素 0.004	第二項に規定すると
	アンモニア性窒素	亜硝酸 0.04	畜場をいい、牛、め
	1.0	ビウレット性窒素	ん羊又は山羊(以下
	2 硝酸性窒素を保	0. 02	「牛等」という。)
	証するものにあつ	スルファミン酸	に係るものに限る。
	ては	0. 01	以下同じ。)の排水
	硝酸性窒素 1.0		処理施設から生じた
	三 水溶性石灰を保証		汚泥を使用する場合
	する場合にあつては		にあつては、肥料の
	水溶性石灰 1.0		品質の確保等に関す
	四 水溶性苦土を保証		る法律施行規則(昭
	するものにあつては		和二十五年農林省令
	水溶性苦土 1.0		第六十四号。以下
	五 水溶性マンガンを		「規則」という。)
	保証するものにあつ		別表第一号ホに規定
	ては		するところにより
	水溶性マンガン		牛、めん羊、山羊及
	0. 10		び鹿によると畜場の
	六 水溶性ほう素を保		排水処理施設から生
	証するものにあつて		じた汚泥を使用して
	は		生産された肥料の摂
	水溶性ほう素 0.05		取に起因して生ずる
	七 可溶性硫黄を保証		これらの家畜の伝達
	するものにあつては		性海綿状脳症の発生
	可溶性硫黄 1.0		を予防するための措
			置(以下「管理措
			置」という。)が行
			われたものであるこ
			と。
			四 原料規格第二中一
			の項ヲ、二の項ホ、
			三の項へ、四の項

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
			ホ、五の項ハ、六の
			項ル、七の項ホ、八
			の項ハ、九の項ハ、
			十の項ヌ、十一の項
			ヌ、十二の項ハ又は
			十三の項ロに掲げる
			原料(以下「要植害
			確認原料」とい
			う。)を使用する肥
			料を原料として使用
			する肥料にあつて
			は、要植害確認原料
			が肥料の品質の確保
			等に関する法律(昭
			和二十五年法律第百
			二十七号。以下
			「法」という。)第
			七条ただし書(法第
			三十三条の二第六項
			において準用する場
			合を含む。以下同
			じ。)の規定に基づ
			き植害試験の調査を
			受け害が認められな
			いものであること。
			五登録の有効期間
			は、原料規格第一中
			一の項ロ、原料規格
			第二中一の項ヲ、二
			の項ホ、三の項へ、
			四の項ホ、五の項
			ハ、六の項ル、七の
			項ホ、八の項ロ若し
			くはハ、九の項ハ、
			十の項ヌ、十一の項
			ヌ、十二の項ハ、十

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
			三の項ロ又は十四の
			項に掲げる原料(登
			録の有効期間が六年
			である肥料又は当該
			肥料を原料として使
			用する肥料の製造に
			おいて生じたものを
			除く。)(以下「三
			年原料」という。)
			を使用する肥料又は
			登録の有効期間が三
			年である肥料(以下
			「三年肥料等」と総
			称する。)を原料と
			して使用する肥料に
			あつては三年、三年
			肥料等を原料として
			使用しない肥料にあ
			つては六年である。
混合窒素肥料(窒素質肥料又	主成分別表第一のとお	一 りん酸又は加里	一 窒素全量を保証す
は副産肥料(専ら原料規格第	り。ただし、同表の記	を保証しないもの	る肥料は、アンモニ
二中一の項から五の項までに	載にかかわらず、窒素	にあつては、窒素	ア性窒素又は硝酸性
掲げる原料を使用した肥料で	全量、アンモニア性窒	全量、アンモニア	窒素以外の形態の窒
あつて、窒素を保証し、りん	素又は硝酸性窒素のい	性窒素、硝酸性窒	素を含有するもの並
酸及び加里を保証しないもの	ずれか一について	素又はアンモニア	びにアンモニア性窒
に限る。)に、窒素質肥料、	1.0	性窒素及び硝酸性	素及び硝酸性窒素を
有機質肥料、副産肥料等、石		窒素の合計量のう	含有するものである
灰質肥料、けい酸質肥料、苦		ち最も大きいもの	こと。
土質肥料、マンガン質肥料、		の含有率1.0%につ	二 りん酸全量又は加
ほう素質肥料又は微量要素複		き	里全量を保証する肥
合肥料を混合したものをい		有害成分別表第一	料は、動植物質の原
う。)		のとおり	料を使用したもので
		二 りん酸又は加里	あること。
		を保証するものに	三 く溶性りん酸を含
		あつては、窒素、	有する肥料及び可溶
		りん酸又は加里の	性りん酸を含有する

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
		それぞれの最も大	肥料を原料として使
		きい主成分の量の	用する肥料にあつて
		合計量の含有率	は、く溶性りん酸又
		1.0%につき	は可溶性りん酸のい
		有害成分別表第二	ずれか一を保証する
		のとおり	ものであること。
			四 アルカリ分を含有
			する肥料及び石灰を
			含有する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、アルカ
			リ分又は石灰のいず
			れか一を保証するも
			のであること。
			五 可溶性マンガンを
			保証する肥料は、可
			溶性マンガンを保証
			する肥料を原料とし
			て使用したものであ
			ること。
			六 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。

肥料の種	類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
		小量 (%)	成分の最大量(%)	
				八登録の有効期間
				は、三年肥料等を原
				料として使用する肥
				料にあつては三年、
				三年肥料等を原料と
				して使用しない肥料
				にあつては六年であ
				る。

## 二 りん酸質肥料 (有機質肥料 (動植物質のものに限る。) を除く。)

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
過りん酸石灰	一 可溶性りん酸		可溶性りん酸の含有	
	15. 0		率1.0%につき	
	水溶性りん酸 13.0		ひ素 0.004	
	二 可溶性りん酸及び		カドミウム 0.00015	
	水溶性りん酸のほか			
	可溶性石灰、く溶性			
	石灰、水溶性石灰又			
	は可溶性硫黄を保証			
	するものにあつて			
	は、一に掲げるもの			
	のほか			
	可溶性石灰について			
	は 1.0			
	く溶性石灰について			
	は 1.0			
	水溶性石灰について			
	は 1.0			
	可溶性硫黄について			
	は 1.0			
重過りん酸石灰	一 可溶性りん酸		可溶性りん酸の含有	
	30.0		率1.0%につき	
	水溶性りん酸 28.0		ひ素 0.004	
	二 可溶性りん酸及び		カドミウム 0.00015	

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
	水溶性りん酸のほか			
	可溶性石灰、く溶性			
	石灰、水溶性石灰又			
	は可溶性硫黄を保証			
	するものにあつて			
	は、一に掲げるもの			
	のほか			
	可溶性石灰について			
	は 1.0			
	く溶性石灰について			
	は 1.0			
	水溶性石灰について			
	は 1.0			
	可溶性硫黄について			
	は 1.0			
りん酸苦土肥料	水溶性りん酸 45.0		水溶性りん酸の含有	
	水溶性苦土 13.0		率 1.0%につき	
			ひ素 0.004	
			カドミウム 0.00015	
よう   kg 4 10 1 mm	一 く溶性りん酸16.0		く溶性りん酸の含有	2ミリメートルの網
熔成りん肥	アルカリ分 40.0		率1.0%につき	ふるいを全通する
	く溶性苦土 11.0		カドミウム 0.00015	こと。
	二 く溶性りん酸、ア			
	ルカリ分及びく溶性			
	苦土のほか可溶性け			
	い酸、く溶性マンガ			
	ン又はく溶性ほう素			
	を保証するものにあ			
	つては、一に掲げる			
	もののほか			
	可溶性けい酸につい			
	ては 19.0			
	く溶性マンガンにつ			
	いては 1.0			
	く溶性ほう素につい			
	ては 0.05			

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
焼成りん肥	く溶性りん酸 34.0		く溶性りん酸の含有	212マイクロメート
	アルカリ分 40.0		率1.0%につき	ルの網ふるいを
			カドミウム 0.00015	90%以上通過する
				こと。
腐植酸りん肥	一 く溶性りん酸15.0		く溶性りん酸の含有	石炭又は亜炭を硝
(石炭又は亜炭	水溶性りん酸 1.0		率1.0%につき	酸で分解したもの
を硝酸で分解	二 く溶性りん酸及び		ひ素 0.002	(3.5%の塩酸に溶
し、熔成りん	水溶性りん酸のほ		亜硝酸 0.01	けないもののう
肥、焼成りん	か、く溶性苦土、水		カドミウム 0.00015	ち、1%の水酸化
肥、りん鉱石、	溶性苦土、く溶性マ		ニッケル 0.01	ナトリウム液に溶
塩基性のマグネ	ンガン、水溶性マン		クロム 0.1	けるものを乾物当
シウム若しくは	ガン、く溶性ほう素			たり70%以上含有
マンガン含有物	又は水溶性ほう素を			するものに限
又はほう酸塩及	保証するものにあつ			る。)は、乾物と
び硫酸又はりん	ては、一に掲げるも			して15%以上30%
酸を加えたもの	ののほか			以下を使用するこ
をいう。)	く溶性苦土について			と。
	は 3.0			
	水溶性苦土について			
	は 1.0			
	く溶性マンガンにつ			
	いては 0.10			
	水溶性マンガンにつ			
	いては 0.10			
	く溶性ほう素につい			
	ては 0.05			
	水溶性ほう素につい			
	ては 0.05			
よう	一 く溶性りん酸 5.0		一 く溶性りん酸の	一 2ミリメートル
熔成けい酸りん	アルカリ分 40.0		含有率1.0%につき	の網ふるいを全
肥(次に掲げる	可溶性けい酸 30.0		ひ素 0.004	通すること。
肥料をいう。	く溶性苦土 12.0		カドミウム	二 く溶性りん酸
一りん鉱石	二 く溶性りん酸、ア		0.00015	及び可溶性けい
に、けい石、	ルカリ分、可溶性け		ニッケル 0.01	酸の含有量の合
石灰石及び塩	い酸及びく溶性苦土		クロム 0.1	計量に対するア
基性のマグネ	のほか、く溶性マン		水銀 0.0001	ルカリ分の含有

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
シウム含有物	ガン又はく溶性ほう		鉛 0.006	量の比率が1.0以
よう	素を保証するものに		二 最大限度量	上であること。
を混合し、熔	あつては、一に掲げ		ニッケル 0.4	三 下水道の終末
融したもの	るもののほか		クロム 4.0	処理から生じる
二 一に掲げる	く溶性マンガンにつ			汚泥を焼成した
よう	いては 0.1			ものを使用する
熔成けい酸り	く溶性ほう素につい			場合にあつて
ん肥の原料に	ては 0.05			は、植害試験の
マンガン含有				調査を受け害が
物又はほう酸				認められないも
塩を混合し、				のであること。
よう				四 と畜場の排水
熔融したもの				処理施設から生
三 下水道の終				じた汚泥を使用
末処理場から				する場合にあつ
生じる汚泥を				ては、管理措置
焼成したもの				が行われたもの
に肥料又は肥				であることこ
料原料を混合				と。
よう				五 牛等の部位
し、熔融した				(牛等由来の原
もの)				料(牛の皮に由
				来するゼラチン
				及びコラーゲン
				を除く。以下同
				じ。)のうち、
				肉(食用に供さ
				れた後に、又は
				食用に供されず
				に肥料の原料と
				して使用される
				食品である肉に
				限る。)、骨
				(食用に供され
				た後に、又は食
				用に供されずに

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
				肥料の原料とし
				て使用される食
				品である骨に限
				る。)、皮、
				毛、角、蹄及び
				臓器(食用に供
				された後に、又
				は食用に供され
				ずに肥料の原料
				として使用され
				る食品である臓
				器に限る。)以
				外のものをい
				う。以下同
				じ。)を原料と
				する場合にあつ
				ては、牛(月齢
				が三十月以下の
				牛(出生の年月
				日から起算して
				三十月を経過し
				た日までのもの
				をいう。)を除
				く。)の脊柱
				(背根神経節を
				含み、頸椎横突
				起、胸椎横突
				起、腰椎横突
				起、頸椎棘突
				起、胸椎 棘 突
				起、腰椎 棘 突

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
				起、仙骨翼、正
				りょう
				中仙骨 稜 及び尾
				椎を除く。)及
				びと畜場法第十
				四条の検査を経
				ていない牛等の
				部位(以下「脊
				柱等」とい
				う。)が混合し
				ないものとして
				農林水産大臣の
				確認を受けた工
				程において製造
				されたものであ
				ること。
鉱さいりん酸肥	一 く溶性りん酸 3.0		く溶性りん酸の含有	4ミリメートルの網
料(製鋼鉱さい	アルカリ分 20.0		率1.0%につき	ふるいを全通する
をいう。)	可溶性けい酸 10.0		カドミウム 0.00015	こと。
	二 く溶性りん酸、ア		ニッケル 0.01	
	ルカリ分及び可溶性		クロム 0.1	
	けい酸のほか、く溶			
	性苦土又はく溶性マ			
	ンガンを保証するも			
	のにあつては、一に			
	掲げるもののほか			
	く溶性苦土について			
	は 1.0			
	く溶性マンガンにつ			
	いては 1.0			
加工鉱さいりん	一 く溶性りん酸 3.0	水溶性りん酸	く溶性りん酸の含有	
酸肥料(鉱さい	アルカリ分 20.0	1.0未満	率1.0%につき	
けい酸質肥料に	可溶性けい酸 10.0		ひ素 0.004	
りん酸を加えた	二く溶性りん酸、ア		カドミウム 0.00015	
ものをいう。)	ルカリ分及び可溶性		ニッケル 0.01	
	けい酸のほかく溶性		クロム 0.1	

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有すべき主成分	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	の最大量 (%)	成分の最大量(%)	
	苦土、く溶性マンガ			
	ン、又はく溶性ほう			
	素を保証するものに			
	あつては、一に掲げ			
	るもののほか			
	く溶性苦土について			
	は 1.0			
	く溶性マンガンにつ			
	いては 1.0			
	く溶性ほう素につい			
	ては 0.05			

### (2) 登録の有効期間が三年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
菌体りん酸肥料(次に掲げる	主成分別表第一のとお	ひ素 0.005	一 主成分の安定化を
肥料をいう。	り。ただし、同表の記	カドミウム 0.0005	図るために、成分の
一 専ら原料規格第二中十六	載にかかわらず、りん	水銀 0.0002	分析及び管理を適正
の項イに掲げる原料を使用	酸全量について 1.0	ニッケル 0.03	に行うものとして農
したもの		クロム 0.05	林水産大臣の確認を
二 原料規格第二中十六の項		鉛 0.01	受けた計画(以下
イに掲げる原料に動植物質			「品質管理計画」と
の原料を混合したもの又は			いう。)に基づいて
これを乾燥したもの			製造されたものであ
三 原料規格第二中十六の項			ること。
イに掲げる原料又は当該原			二 く溶性りん酸を含
料に動植物質の原料若しく			有する原料及び可溶
は原料規格第二中十六の項			性りん酸を含有する
口に掲げる原料を混合した			原料を使用する肥料
ものを堆積又は撹拌し、腐			にあつては、く溶性
熟させたもの			りん酸又は可溶性り
四 専ら原料規格第二中十六			ん酸のいずれかーを
の項口に掲げる原料を使用			保証するものである
したもの)			こと。
			三 アルカリ分を含有
			する原料及び石灰を

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
			含有する原料を使用
			する肥料にあつて
			は、アルカリ分又は
			石灰のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			四 植害試験の調査を
			受けていない排水処
			理活性沈殿物(原料
			規格第二中十六の項
			に掲げるものをい
			う。)を原料とする
			肥料にあつては、植
			害試験の調査を受け
			害が認められないも
			のであること。
			五 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			六 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。

## (3) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最		その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
被覆りん酸肥料(りん酸質肥	一 水溶性りん酸 10.0	水溶性りん酸の含有	一 りん酸の初期溶出
料又は副産肥料(専ら原料規	二 水溶性りん酸のほ	率1.0%につき	率は50%以下である

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
格第二中六の項に掲げる原料	か水溶性石灰、水溶	ひ素 0.004	こと。
を使用した肥料であつて、り	性苦土、水溶性マン	カドミウム 0.00015	二 と畜場の排水処理
ん酸を保証し、窒素及び加里	ガン、水溶性ほう素		施設から生じた汚泥
を保証しないものに限る。)	又は可溶性硫黄を保		を使用する場合にあ
を硫黄その他の被覆原料で被	証するものにあつて		つては、管理措置が
覆したものをいう。)	は、一に掲げるもの		行われたものである
	のほか		こと。
	水溶性石灰について		三 要植害確認原料を
	は 1.0		使用する肥料を原料
	水溶性苦土について		として使用する肥料
	は 1.0		にあつては、要植害
	水溶性マンガンにつ		確認原料が法第七条
	いては 0.10		ただし書の規定に基
	水溶性ほう素につい		づき植害試験の調査
	ては 0.05		を受け害が認められ
	可溶性硫黄について		ないものであるこ
	は 1.0		と。
			四 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。
加工りん酸肥料(りん酸質肥	一 く溶性りん酸及び	く溶性りん酸の含有	一 と畜場の排水処理
料、副産肥料(専ら原料規格	水溶性りん酸を保証	率1.0%につき	施設から生じた汚泥
第二中六の項に掲げる原料を	するものにあつては	ひ素 0.004	を使用する場合にあ
使用した肥料であつて、りん	く溶性りん酸 15.0	カドミウム 0.00015	つては、管理措置が
酸を保証し、窒素及び加里を	水溶性りん酸 1.0	ニッケル 0.01	行われたものである
保証しないものに限る。)、	二 く溶性りん酸及び	クロム 0.1	こと。
<sup>ょう</sup> 熔成微量要素複合肥料、りん	水溶性りん酸のほか	チタン 0.04	二 要植害確認原料を
酸含有物、塩基性のカルシウ	可溶性石灰、く溶性		使用する肥料を原料
ム、マグネシウム若しくはマ	石灰、水溶性石灰、		として使用する肥料
ンガン含有物、鉱さい又はほ	く溶性苦土、水溶性		にあつては、要植害
う酸塩に硫酸、りん酸又は塩	苦土、く溶性マンガ		確認原料が法第七条

	1		1
肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
酸を加えたものをいう。)	ン、く溶性ほう素、	/从从《AX八里(/0)	ただし書の規定に基
政を加えたものをいう。)	水溶性ほう素又は可		でき植害試験の調査
			を受け害が認められ
	ものにあつては、一		ないものであるこ
	に掲げるもののほか		ک. - ۲۰۸۲ میلی ا
	可溶性石灰について		三登録の有効期間
	1.0		は、三年肥料等を原
	く溶性石灰について		料として使用する肥
	1.0		料にあつては三年、
	水溶性石灰について		三年肥料等を原料と
	は 1.0		して使用しない肥料
	く溶性苦土について		にあつては六年であ
	は 2.0		る。
	水溶性苦土について		
	は 1.0		
	く溶性マンガンにつ		
	いては 1.0		
	く溶性ほう素につい		
	ては 0.05		
	水溶性ほう素につい		
	ては 0.05		
	可溶性硫黄について		
	は 1.0		
混合りん酸肥料(りん酸質肥	主成分別表第一のとお	一 窒素又は加里を	一 窒素全量を保証す
料又は副産肥料(専ら原料規	り。ただし、同表の記	保証しないものに	る肥料は、アンモニ
   格第二中六の項に掲げる原料	載にかかわらず、可溶	あつては、保証す	ア性窒素又は硝酸性
   を使用した肥料であつて、り	  性りん酸、く溶性りん	る主成分のうち最	   窒素以外の形態の窒
ん酸を保証し、窒素及び加里	酸又は水溶性りん酸の	も大きい主成分の	素を含有するもの並
を保証しないものに限る。)	   いずれか一について	量の合計量の含有	びにアンモニア性窒
に、りん酸質肥料、有機質肥	1.0	率1.0%につき有害	素及び硝酸性窒素を
料、副産肥料等、石灰質肥		成分別表第二のと	含有するものである
料、けい酸質肥料、苦土質肥		おりの最大量	こと。
料、マンガン質肥料、ほう素		二 窒素又は加里を	二のの一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の
質肥料又は微量要素複合肥料		ー	□ すん酸 生 量 入 ほ 加 □ 里全量を保証する 肥
を混合したものをいう。)		つては、窒素、り	料は、動植物質の原
- Emil OにOove v· )。)		ん酸、又は加里の	料を使用したもので
		の敗、人は加里の	付て使用したもので

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	八里 (/0)	それぞれの最も大	あること。
		きい主成分の量の	三 く溶性りん酸を含
		合計量の含有率	有する肥料及び可溶
		1.0%につき有害成	性りん酸を含有する
		分別表第二のとお	肥料を原料として使
		りの最大量	用する肥料にあつて
			は、く溶性りん酸又
			は可溶性りん酸のい
			ずれか一を保証する
			ものであること。
			四 アルカリ分を含有
			する肥料及び石灰を
			含有する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、アルカ
			リ分又は石灰のいず
			れか一を保証するも
			のであること。
			五 可溶性マンガンを
			保証する肥料は、可
			溶性マンガンを保証
			する肥料を原料とし
			て使用したものであ
			ること。
			六 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。

## 三 加里質肥料 (有機質肥料 (動植物質のものに限る。) を除く。)

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	(10) 图 (7) 图 (4)
硫酸加里	一 水溶性加里 45.0	水溶性加里の含有率	塩素は、5.0%以下であ
	二 水溶性加里のほか	1.0%につき	ること。
	可溶性硫黄を保証す	ひ素 0.004	
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	可溶性硫黄 1.0		
塩化加里	一 水溶性加里 50.0		
	二 水溶性加里のほか		
	水溶性ほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	水溶性ほう素 0.10		
硫酸加里苦土	一 水溶性加里 12.0	水溶性加里の含有率	塩素は、5.0%以下であ
	水溶性苦土 5.0	1.0%につき	ること。
	二 水溶性加里及び水	ひ素 0.004	
	溶性苦土のほか可溶		
	性硫黄を保証するも		

肥料の種類 小量(%) 成分の最大量(%) その他の制限事項 のにあつては、一に 掲げるもののほか 可溶性硫黄 1.0 塩素は、5.0%以下であること。 腐植酸加里肥料(石炭又は亜 ー 水溶性加里を保証 水溶性加里の含有率
据げるもののほか 可溶性硫黄 1.0 本溶性加里 45.0 塩素は、5.0%以下であること。  「腐植酸加里肥料(石炭又は亜 ナるものにあつては たがにつき ないもののうち、 ないもののうち、 水溶性加里 10.0 大溶性加里のほか ナッウム含有物を加えたものを と溶性が出来のほか と溶性・主を保証するも では カム液に溶けるもの が当該肥料に50%以 上含有されること。
可溶性硫黄 1.0   塩素は、5.0%以下であること。   協植酸加里肥料(石炭又は亜
重炭酸加里水溶性加里45.0塩素は、5.0%以下であること。腐植酸加里肥料(石炭又は亜 炭を硝酸又は硫酸で分解し、 するものにあつては
腐植酸加里肥料 (石炭又は亜 炭を硝酸又は硫酸で分解し、 塩基性のカリウム又はマグネ シウム含有物を加えたものを いう。)木溶性加里を保証 するものにあつては 水溶性加里水溶性加里の含有率 1.0%につき ひ素 亜硝酸一 3.5%の塩酸に溶け ないもののうち、 1 %の水酸化ナトリ ウム液に溶けるもの が当該肥料に50%以 上含有されること。
腐植酸加里肥料(石炭又は亜 炭を硝酸又は硫酸で分解し、 塩基性のカリウム又はマグネ シウム含有物を加えたものを いう。)一 水溶性加里を保証 するものにあつては 水溶性加里水溶性加里の含有率 1.0%につき ひ素 亜硝酸 ・ 0.004 ・ 1%の水酸化ナトリー ウム液に溶けるものいう。) ・ 2落性苦土及び水溶 ・ 性苦土を保証するも ・ 上含有されること。
炭を硝酸又は硫酸で分解し、 塩基性のカリウム又はマグネ シウム含有物を加えたものを いう。)       するものにあつては 水溶性加里       1.0%につき ひ素       ないもののうち、 1%の水酸化ナトリ ウム液に溶けるもの く溶性苦土及び水溶 性苦土を保証するも            し.04       ウム液に溶けるもの が当該肥料に50%以 上含有されること。
塩基性のカリウム又はマグネ シウム含有物を加えたものを いう。)水溶性加里 ニ 水溶性加里のほか く溶性苦土及び水溶 性苦土を保証するもひ素 亜硝酸 ・ 0.004 ・ 0.04 ・ ウム液に溶けるもの が当該肥料に50%以 上含有されること。
シウム含有物を加えたものを いう。)       二 水溶性加里のほか く溶性苦土及び水溶 性苦土を保証するも       亜硝酸 の.04       ウム液に溶けるもの が当該肥料に50%以 上含有されること。
いう。)       く溶性苦土及び水溶       が当該肥料に50%以         性苦土を保証するも       上含有されること。
性苦土を保証するも 上含有されること。
のにあつては 二 硫酸塩は、10%以
水溶性加里 8.0 下であること。
く溶性苦土 2.0 三 炭酸塩は、二酸化
水溶性苦土 1.0 炭素として2.0%以下
であること。
けい酸加里肥料 (塩基性のカ 一 く溶性加里 10.0 未反応の加里は、3.0%
リウム、カルシウム、マグネ 可溶性けい酸 25.0 以下であること。
シウム若しくはナトリウム含 く溶性苦土 3.0
有物又はほう素質肥料及び微 二 く溶性加里、可溶
粉炭燃焼灰を混合し、焼成した性けい酸及びく溶性
ものをいう。) 苦土のほか水溶性加
里又はく溶性ほう素
を保証するものにあ
つては、一に掲げる
もののほか
水溶性加里について
1.0
く溶性ほう素につい
ては 0.05
粗製加里塩 一 水溶性加里 30.0
二 水溶性加里のほか
水溶性苦土を保証す
るものにあっては、
一に掲げるもののほ
לא

肥料の種類	含有すべき主成分	分の最	含有を許され	る有害	スの他の判別東西
	小量 (%)		成分の最大量	(%)	その他の制限事項
	水溶性苦土	5.0			
加工苦汁加里肥料(粗製加里	水溶性加里	6.0			
塩に石灰を加えたものをい	く溶性苦土	5.0			
う。)					
液体けい酸加里肥料	水溶性加里	6.0			
	水溶性けい酸	12.0			
熔成けい酸加里肥料(カリウ	一 く溶性加里	20.0	く溶性加里の	含有率	4ミリメートルの網ふる
ム含有物に製鋼鉱さいを混合	アルカリ分	15.0	1.0%につき		いを全通すること。
し、熔融したものをいう。)	可溶性けい酸	25.0	ニッケル	0.01	
	二 く溶性加里、	アル	クロム	0.1	
	カリ分及び可利	容性け			
	い酸のほかく	容性マ			
	ンガンを保証で	するも			
	のにあっては、	- に			
	掲げるもののほ	カュ			
	く溶性マンガン	1.0			

### (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

(2) 3524(3) [17/37/3][1] (4)	十人はハー(めるもの		
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ル 44 07 1里 規	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の前似事項
被覆加里肥料(加里質肥料又	一 水溶性加里 10.0	水溶性加里の含有率	一 加里の初期溶出率
は副産肥料(専ら原料規格第	二 水溶性加里のほか	1.0%につき	は50%以下であるこ
二中七の項又は八の項に掲げ	水溶性石灰、水溶性	ひ素 0.004	と。
る原料を使用した肥料であつ	苦土、水溶性マンガ		二 と畜場の排水処理
て、加里を保証し、窒素及び	ン、水溶性ほう素又		施設から生じた汚泥
りん酸を保証しないものに限	は可溶性硫黄を保証		を使用する場合にあ
る。)を硫黄その他の被覆原	するものにあつて		つては、管理措置が
料で被覆したものをいう。)	は、一に掲げるもの		行われたものである
	のほか水溶性石灰に		こと。
	ついては		三 要植害確認原料を
	1.0		使用する肥料を原料
	水溶性苦土について		として使用する肥料
	は 1.0		にあつては、要植害
	水溶性マンガンにつ		確認原料が法第七条
	いては 0.10		ただし書の規定に基
	水溶性ほう素につい		づき植害試験の調査

ner dat der	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	w - ti - tidada
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	ては 0.05		を受け害が認められ
	可溶性硫黄について		ないものであるこ
	は 1.0		と。
			四 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。
混合加里肥料(加里質肥料又	主成分別表第一のとお	一 窒素又はりん酸	一 窒素全量を保証す
は副産肥料(専ら原料規格第	り。ただし、同表の記	を保証しないもの	る肥料は、アンモニ
二中七の項又は八の項に掲げ	載にかかわらず、く溶	にあつては、保証	ア性窒素又は硝酸性
る原料を使用した肥料であつ	性加里又は水溶性加里	する主成分のうち	窒素以外の形態の窒
て、加里を保証し、窒素及び	のいずれか一について	最も大きい主成分	素を含有するもの並
りん酸を保証しないものに限	1.0	の量の合計量の含	びにアンモニア性窒
る。)に、加里質肥料、有機		有率1.0%につき有	素及び硝酸性窒素を
質肥料、副産肥料等、石灰質		害成分別表第二の	含有するものである
肥料、けい酸質肥料、苦土質		とおりの最大量	こと。
肥料、マンガン質肥料、ほう		二 窒素又はりん酸	二 りん酸全量又は加
素質肥料又は微量要素複合肥		を保証するものに	里全量を保証する肥
料を混合したものをいう。)		あつては、窒素、	料は、動植物質の原
		りん酸又は加里の	料を使用したもので
		それぞれの最も大	あること。
		きい主成分の量の	三 く溶性りん酸を含
		合計量の含有率	有する肥料及び可溶
		1.0%につき有害成	性りん酸を含有する
		分別表第二のとお	肥料を原料として使
		りの最大量	用する肥料にあつて
			は、く溶性りん酸又
			は可溶性りん酸のい
			ずれか一を保証する
			ものであること。
			四 アルカリ分を含有
			する肥料及び石灰を

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			含有する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、アルカ
			リ分又は石灰のいず
			れか一を保証するも
			のであること。
			五 可溶性マンガンを
			保証する肥料は、可
			溶性マンガンを保証
			する肥料を原料とし
			て使用したものであ
			ること。
			六 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。

# 四 有機質肥料 (動植物質のものに限る。)

(1) 322(1) 11/3/91114(0)		A 1. 3 -1. 1 3 1. 1.	
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
魚かす粉末	一 窒素全量及びりん		
	酸全量の合計量		
	12.0		
	室素全量 4.0		
	りん酸全量 3.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
干魚肥料粉末	一 窒素全量 6.0		
	りん酸全量 3.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
魚節煮かす	一 窒素全量 9.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
l	1	L	

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	一 窒素全量 3.0		
	りん酸全量 1.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
蒸製魚鱗及びその粉末	一 窒素全量 6.0		
	りん酸全量 18.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	か		
	主成分別表第二のと		
	おり		
肉かす粉末	一 窒素全量 6.0		牛等の部位を原料とす
	二 窒素全量のほかけ		る場合にあつては、脊
	い酸、苦土、マンガ		柱等が混合しないもの
	ン又はほう素を保証		として農林水産大臣の
	するものにあつて		確認を受けた工程にお
	は、一に掲げるもの		いて製造されたもので
	のほか		あること。
	主成分別表第二のと		
	おり		
肉骨粉	一 窒素全量 5.0		牛等の部位を原料とす
	りん酸全量 5.0		る場合にあつては、脊
	二 窒素全量及びりん		柱等が混合しないもの
	酸全量のほかけい		として農林水産大臣の
	酸、苦土、マンガン		確認を受けた工程にお

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	又はほう素を保証す		いて製造されたもので
	るものにあつては、		あること。
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
蒸製てい角粉	一 窒素全量 10.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
蒸製でい角骨粉	一 窒素全量及びりん		牛等の部位を原料とす
	酸全量の合計量		る場合にあつては、脊
	15. 0		柱等が混合しないもの
	窒素全量 6.0		として農林水産大臣の
	りん酸全量 7.0		確認を受けた工程にお
	二 窒素全量及びりん		いて製造されたもので
	酸全量のほかけい		あること。
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
蒸製毛粉(羽及び鯨ひげを蒸	一 窒素全量 6.0		
製したものを含む。)	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		

	<u> </u>	<u> </u>	
肥料の種類	含有すべき主成分の最   小量(%)	含有を許される有害   成分の最大量(%)	その他の制限事項
	主成分別表第二のと		
	おり		
乾血及びその粉末	一 窒素全量 10.0		牛等の部位を原料とす
	二 窒素全量のほかけ		る場合にあつては、脊
	い酸、苦土、マンガ		柱等が混合しないもの
	ン又はほう素を保証		として農林水産大臣の
	するものにあつて		確認を受けた工程にお
	は、一に掲げるもの		いて製造されたもので
	のほか		あること。
	主成分別表第二のと		
	おり		
生骨粉	一 窒素全量及びりん		牛等の部位を原料とす
	酸全量の合計量		る場合にあつては、脊
	20.0		柱等が混合しないもの
	窒素全量 3.0		として農林水産大臣の
	りん酸全量 16.0		確認を受けた工程にお
	二 窒素全量及びりん		いて製造されたもので
	酸全量のほかけい		あること。
	酸、石灰、苦土、マ		
	ンガン又はほう素を		
	保証するものにあつ		
	ては、一に掲げるも		
	ののほか		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	主成分別表第二のと		
	可溶性石灰につい		
	ては 1.0		
	く溶性石灰について		
	1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
蒸製骨粉(脱こう骨粉を含	一 窒素全量及びりん		牛等の部位を原料とす
む。)	酸全量を保証するも		る場合にあつては、脊

num dad dec des	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	a di dilata da ce
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	のにあつては窒素全		柱等が混合しないもの
	量及びりん酸全量の		として農林水産大臣の
	合計量 21.0		確認を受けた工程にお
	室素全量 1.0		いて製造されたもので
	りん酸全量 17.0		あること。
	二 りん酸全量を保証		
	するものにあつては		
	りん酸全量 25.0		
	三 窒素全量又はりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、石灰、苦土、マ		
	ンガン又はほう素を		
	保証するものにあつ		
	ては、一又は二に掲		
	げるもののほか		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
蒸製鶏骨粉	一 窒素全量及びりん		
	酸全量の合計量		
	17. 0		
	室素全量 1.0		
	りん酸全量 13.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、石灰、苦土、マ		
	ンガン又はほう素を		
	保証するものにあつ		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	ては、一に掲げるも		
	ののほか		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
蒸製皮革粉	一 窒素全量 6.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
よう	おり		
干蚕蛹粉末	一 窒素全量 7.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
\$5 1. 1. T. 20 2 - M. I.	おり		
蚕蛹油かす及びその粉末	一 窒素全量   8.0     二 窒素全量のほかり		
	一 至系生軍のほかり ん酸全量、けい酸、		
	苦土、マンガン又は		
	古工、マンガン又は ほう素を保証するも		
	はリ糸を休祉するも		

TITE VIOL OF ATT. NAT	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	Z o bloodbylle trat
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	のにあつては、一に		
	掲げるもののほか		
	りん酸全量について		
	は 1.0		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		
絹紡蚕蛹くず	一 窒素全量 7.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
とうもろこしはい芽及びその	一 窒素全量 2.0		
粉末	りん酸全量 2.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
大豆油かす及びその粉末	一 窒素全量 6.0		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	マンガン、又はほう		
	素を保証するものに		
	あつては、一に掲げ		
	るもののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
なたね油かす及びその粉末	一 窒素全量 4.5		
(からし油かす及びその粉末	りん酸全量 1.9		
を含む。)	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
わたみ油かす及びその粉末	一 窒素全量 5.0		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
落花生油かす及びその粉末	一 窒素全量 5.5		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量(%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
), ), ), ), ], T, (), X, - \(\sigma\), [	おり		
あまに油かす及びその粉末	一 窒素全量 4.5		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
ごま油かす及びその粉末	一 窒素全量 6.0		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
ひまし油かす及びその粉末	一 窒素全量 4.0		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量(%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
W. L. J. M. J. L. T. 407 O.W. L.	おり		
米ぬか油かす及びその粉末	一 室素全量 2.0		
	りん酸全量 4.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
その他の草本性植物油かす及	一 窒素全量 3.0		
びその粉末(二以上の草本性	りん酸全量 1.0		
植物油かす及びその粉末を混	加里全量 1.0		
合したものを除く。)	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
カポック油かす及びその粉末	一 窒素全量 4.5		
7. N. 7. 7 IBW 7 JAO C 1/1/1/A	りん酸全量 1.0		
	加里全量 1.0		
	加重主量 1.0 二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
とうもろこしはい芽油かす及	一 窒素全量 3.0		
びその粉末	りん酸全量 1.0		
	二 窒素全量及びりん		
	酸全量のほかけい		
	酸、苦土、マンガン		
	又はほう素を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	主成分別表第二のと		
	おり		
たばこくず肥料粉末	一 窒素全量 1.0		変性しないものである
	加里全量 4.0		こと。
	二 窒素全量及び加里		
	全量のほかけい酸、		
	苦土、マンガン又は		
	ほう素を保証するも		
	のにあつては、一に		
	掲げるもののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
甘草かす粉末	一 窒素全量 8.0		
	二 窒素全量のほかけ		
	い酸、苦土、マンガ		
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		

田火の発展	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	er - 11 - North-Aret
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
豆腐かす乾燥肥料	一 窒素全量 4.0		
	二 窒素全量のほかり		
	ん酸全量、加里全		
	量、けい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	りん酸全量について		
	は 1.0		
	加里全量については		
	1.0		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		
えんじゆかす粉末	一 窒素全量 3.0		
	りん酸全量 1.0		
	加里全量 2.0		
	二 窒素全量、りん酸		
	全量及び加里全量の		
	ほかけい酸、苦土、		
	マンガン又はほう素		
	を保証するものにあ		
	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	主成分別表第二のと		
	おり		
窒素質グアノ	一 窒素全量 12.0		
	アンモニア性窒素		
	1.0		
	りん酸全量 8.0		
	可溶性りん酸 4.0		
	加里全量 1.0		
	二 窒素全量、アンモ		

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	ニア性窒素、りん酸 全量、可溶性りん酸 及び加里全量のほか けい酸、苦土、マン ガン又はほう素を保 証するものにあつて は、一に掲げるもの	- PAJJ マノ収八里 ( /0 )	
	のほか 主成分別表第二のと おり		
加工家きんふん肥料(次に掲げる肥料をいう。	一 窒素全量2.5りん酸全量2.5	窒素全量の含有率 1.0%につき	水分は20%以下であること。
<ul> <li>一家きんのふんに硫酸等を混合して火力乾燥したもの</li> <li>二家きんのふんを加圧蒸煮した後乾燥したもの</li> <li>三家きんのふんについて熱風乾燥及び粉砕を同時に行ったもの</li> <li>四家きんのふんをはつこう乾燥させたもの)</li> </ul>	加里全量 1.0 2	ひ素 0.004	
とうもろこし浸漬液肥料(コ	は     1.0       - 窒素全量     3.0	窒素全量の含有率	
ーンスターチを製造する際に 副産されるとうもろこしを亜 硫酸液で浸漬した液を発酵、 濃縮したものをいう。)	りん酸全量3.0加里全量2.0水溶性加里2.0二 窒素全量、りん酸全量、加里全量及び	1.0%につきひ素0.004亜硫酸0.01	
	水溶性加里のほかけい酸、苦土、マンガ		

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	ン又はほう素を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか主成分別表第		
	二のとおり		
食品残さ加工肥料(食品由来	一 窒素全量 2.5		油分は10%以下である
の有機質物(食品加工場等に	加里全量 1.0		こと。
おける食品の製造、加工又は	二 窒素全量及び加里		
調理の過程で発生した食用に	全量のほかりん酸全		
供することができない残さを	量、けい酸、苦土、		
除く。)を加熱乾燥し、搾油	マンガン又はほう素		
機により搾油したかすをい	を保証するものにあ		
う。)	つては、一に掲げる		
	もののほか		
	りん酸全量について		
	は 1.0		
	けい酸、苦土、マン		
	ガン又はほう素につ		
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		

## (2) 登録の有効期間が三年であるもの

   肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項	
ル 4分 9 1里 規	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の前似事項	
魚廃物加工肥料(原料規格第	一 窒素全量 4.0	窒素全量の含有率	一 と畜場の排水処理	
一中一の項イ又は口に掲げる	りん酸全量 1.0	1.0%につき	施設から生じた汚泥	
原料を泥炭その他の動植物に	二 窒素全量及びりん	カドミウム 0.00008	を使用する場合にあ	
由来する吸着原料に吸着させ	酸全量のほか加里全		つては、管理措置が	
たものをいう。)	量、けい酸、苦土、		行われたものである	
	マンガン又はほう素		こと。	
	を保証するものにあ		二 牛等の部位を原料	
	つては、一に掲げる		とする場合にあつて	
	もののほか		は、脊柱等が混合し	
	加里全量については		ないものとして農林	
	1.0		水産大臣の確認を受	

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	けい酸、苦土、マン		けた工程において製
	ガン又はほう素につ		造されたものである
	いては		こと。
	主成分別表第二のと		
	おり		
乾燥菌体肥料(次に掲げる肥	一 窒素全量を保証す	窒素全量の含有率	一 植害試験の調査を
料をいう。	るものにあつては	1.0%につき	受け害が認められな
ー 専ら原料規格第一中三の	窒素全量 5.5	カドミウム 0.00008	いものであること。
項ホ又はへに掲げる原料を	二 窒素全量のほかり		二 と畜場の排水処理
使用したもの	ん酸全量、加里全		施設から生じた汚泥
二 原料規格第二中十五の項	量、けい酸、石灰、		を使用する場合にあ
に掲げる原料を加熱乾燥し	苦土、マンガン、ほ		つては、管理措置が
たもの)	う素又は可溶性硫黄		行われたものである
	を保証するものにあ		こと。
	つては		三 牛等の部位を原料
	窒素全量 4.0		とする場合にあつて
	りん酸全量について		は、脊柱等が混合し
	は 1.0		ないものとして農林
	加里全量については		水産大臣の確認を受
	1.0		けた工程において製
	けい酸、苦土、マン		造されたものである
	ガン又はほう素につ		こと。
	いては		
	主成分別表第二のと		
	おり		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
	可溶性硫黄について		
	は 1.0		

## (3) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	主成分別表第一のとお	原料規格第一中一の	
規格第一に掲げる原料を使用	ŋ	項に掲げる原料を使	全量又は加里全量の
したものをいう。)		用したものにあつて	いずれか一以上を保
		は、保証する窒素、	証したものであるこ
		りん酸又は加里のう	と。
		ち最も大きい主成分	二 く溶性りん酸を含
		の量の含有率1.0%に	有する原料及び可溶
		つき	性りん酸を含有する
		ひ素 0.01	原料を使用する肥料
		カドミウム 0.00008	にあつては、く溶性
			りん酸又は可溶性り
			ん酸のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			三 アルカリ分を含有
			する原料及び石灰を
			含有する原料を使用
			する肥料にあつて
			は、アルカリ分又は
			石灰のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			四 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。
			五登録の有効期間
			は、三年原料を使用
			する肥料にあつては
			三年、三年原料を使

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			用しない肥料にあつ
			ては六年である。
混合有機質肥料(次に掲げる	主成分別表第一のとお	保証する窒素、りん	一 窒素全量、りん酸
肥料をいう。	b	酸又は加里のうち最	全量又は加里全量の
一 有機質肥料に有機質肥料		も大きい主成分の量	いずれか一以上を保
又は米ぬか、発酵米ぬか、		の含有率1.0%につき	証したものであるこ
乾燥藻及びその粉末、よも		ひ素 0.01	と。
ぎかす若しくは動物の排せ		カドミウム 0.00008	二 く溶性りん酸を含
つ物(鶏ふんの炭化物に限			有する原料及び可溶
る。)を混合したもの			性りん酸を含有する
二 一に掲げる混合有機質肥			原料を使用する肥料
料の原料となる肥料に血液			にあつては、く溶性
又は豆腐かすを混合し、乾			りん酸又は可溶性り
燥したもの)			ん酸のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			三 アルカリ分を含有
			する原料及び石灰を
			含有する原料を使用
			する肥料にあつて
			は、アルカリ分又は
			石灰のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			四 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			五 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。
			六 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。

#### 五 副産肥料等

## (1) 登録の有効期間が三年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許され	しる有害	その他の制限事項	
	小量 (%)	成分の最大量	(%)	ての他の前限事項	
菌体肥料(次に掲げる肥料を	主成分別表第一のとお	ひ素	0.005	一 く溶性りん酸を含	
いう。	ŋ	カドミウム	0.0005	有する原料及び可溶	
一 専ら原料規格第二中十五		水銀	0.0002	性りん酸を含有する	
の項に掲げる原料を使用し		ニッケル	0.03	原料を使用する肥料	
たもの		クロム	0.05	にあつては、く溶性	
二 原料規格第二中十五の項		鉛	0.01	りん酸又は可溶性り	
に掲げる原料又は当該原料				ん酸のいずれか一を	
に原料規格第一に掲げる原				保証するものである	
料を混合したものを堆積又				こと。	
は撹拌し、腐熟させたもの				二 アルカリ分を含有	
をいう。)				する原料及び石灰を	
				含有する原料を使用	
				する肥料にあつて	
				は、アルカリ分又は	
				石灰のいずれかーを	
				保証するものである	
				こと。	
				三 植害試験の調査を	
				受け害が認められな	
				いものであること。	

	肥	料	の	種	類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
,	ЛС	14	V	1里	炽	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての同の別別政事項
								四 と畜場の排水処理
								施設から生じた汚泥
								を使用する場合にあ
								つては、管理措置が
								行われたものである
								こと。
								五 牛等の部位を原料
								とする場合にあつて
								は、脊柱等が混合し
								ないものとして農林
								水産大臣の確認を受
								けた工程において製
								造されたものである
								こと。

#### (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

(乙) 豆或炒有奶粉间加一	17/6/11 (0) 5 0 0			
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項	
	小量 (%)	成分の最大量(%)	この個の間候事項	
副産肥料(次に掲げる肥料を	主成分別表第一のとお	有害成分別表第三の	一 窒素全量を保証す	
いう。	ŋ	とおり	る肥料は、アンモニ	
一 原料規格第一に掲げる原			ア性窒素又は硝酸性	
料及び原料規格第二に掲げ			窒素以外の形態の窒	
る原料(十五の項及び十六			素を含有するもの並	
の項に掲げるものを除			びにアンモニア性窒	
く。)をそれぞれ一以上使			素及び硝酸性窒素を	
用したもの			含有するものである	
二 専ら原料規格第二に掲げ			こと。	
る原料(十五の項及び十六			二 りん酸全量又は加	
の項に掲げるものを除			里全量を保証する肥	
く。)を使用したもの)			料は、動植物質の原	
			料を使用したもので	
			あること。	
			三 く溶性りん酸を含	
			有する原料及び可溶	
			性りん酸を含有する	
			原料を使用する肥料	

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	الالمالا د د د سان الا
			にあつては、く溶性
			りん酸又は可溶性り
			ん酸のいずれか一を
			保証するものである
			こと。
			四アルカリ分を含有
			する原料及び石灰を
			含有する原料を使用
			する肥料にあつて
			は、アルカリ分又は
			石灰のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			五 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。
			六 製鋼鉱さいを原料
			とするものにあつて
			は、4ミリメートルの
			網ふるいを全通する
			ものであること。そ
			の他の鉱さいを原料
			とする場合にあつて
			は、2ミリメートルの
			網ふるいを全通し、
			かつ、600マイクロメ
			ートルの網ふるいを
			60%以上通過するこ
			と。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料にあつ

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	7.04.041四字子
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
			ては、要植害確認原
			料が法第七条ただし
			書の規定に基づき植
			害試験の調査を受け
			害が認められないも
			のであること。
			八 登録の有効期間
			は、三年原料を使用
			する肥料にあつては
			三年、三年原料を使
			用しない肥料にあつ
			ては六年である。
液状肥料(肥料(混合汚泥複	一1 窒素全量を保証	有害成分別表第三の	一 窒素全量を保証す
合肥料及び規則第一条の二各	するものにあつて	とおり	る肥料は、アンモニ
号に掲げる普通肥料を除	は		ア性窒素又は硝酸性
く。)又は肥料原料(原料規	窒素全量 1.0		窒素以外の成分形態
格第一及び原料規格第二に掲	2 アンモニア性窒素		の窒素を含有するも
げるものに限り、要植害確認	を保証するものに		の並びにアンモニア
原料並びに原料規格第二中十	あつては		性窒素及び硝酸性窒
五の項及び十六の項に掲げる	アンモニア性窒素		素を併せて含有する
ものを除く。)を使用したも	1.0		ものであること。
のであつて、液状のものをい	3 硝酸性窒素を保証		二 りん酸全量又は加
う。)	するものにあつて		里全量を保証する肥
	は		料は、動植物質の原
	硝酸性窒素 1.0		料を使用したもので
	二1 りん酸全量を保		あること。
	証するものにあつ		三 く溶性りん酸を含
	ては		有する原料及び可溶
	りん酸全量 1.0		性りん酸を含有する
	2 く溶性りん酸を保		原料を使用する肥料
	証するものにあつ		にあつては、く溶性
	ては		りん酸又は可溶性り
	く溶性りん酸 1.0		ん酸のいずれか一を
	3 可溶性りん酸を保		保証するものである
	証するものにあつ		こと。
	ては		四 アルカリ分を含有

m 似 o 衽 妬	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	スの此の制門事項
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	可溶性りん酸 1.0		する原料及び石灰を
	4 水溶性りん酸を保		含有する原料を使用
	証するものにあつ		する肥料にあつて
	ては		は、アルカリ分又は
	水溶性りん酸 1.0		石灰のいずれかーを
	三1 加里全量を保証		保証するものである
	するものにあつて		こと。
	は		五 チオ硫酸アンモニ
	加里全量 1.0		ウムに由来する窒素
	2 く溶性加里を保証		を含有する肥料にあ
	するものにあつて		つては、pHが6.0以上
	は		のものであること。
	く溶性加里 1.0		六 シアナミドに由来
	3 水溶性加里を保証		する窒素を含有する
	するものにあつて		肥料にあつては、そ
	は		の他の原料に由来す
	水溶性加里 1.0		る窒素を含有しない
	四 アルカリ分を保証		こと。
	するものにあつては		七 シアナミドに由来
	アルカリ分 5.0		する窒素を含有する
	五1 可溶性石灰を保		肥料にあつては、ジ
	証するものにあつ		シアンジアミド性窒
	ては		素は窒素全量の
	可溶性石灰 1.0		20.0%以下であるこ
	2 く溶性石灰を保証		と。
	するものにあつて		八 と畜場の排水処理
	は		施設から生じた汚泥
	く溶性石灰 1.0		を使用する場合にあ
	3 水溶性石灰を保証		つては、管理措置が
	するものにあつて		行われたものである
	は		こと。
	水溶性石灰 1.0		九 牛等の部位を原料
	六1 可溶性けい酸を		とする場合にあつて
	保証するものにあ		は、脊柱等が混合し
	つては		ないものとして農林
	可溶性けい酸 5.0		水産大臣の確認を受

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	2 水溶性けい酸を保		けた工程において製
	証するものにあつ		造されたものである
	ては		こと。
	水溶性けい酸 5.0		十 製鋼鉱さいを原料
	   七1 可溶性苦土を保		とするものにあつて
	証するものにあつ		は、4ミリメートルの
	ては		網ふるいを全通する
	可溶性苦土 1.0		ものであること。そ
	2 く溶性苦土を保証		の他の鉱さいを原料
	するものにあつて		とする場合にあつて
	は		は、2ミリメートルの
	く溶性苦土 1.0		網ふるいを全通し、
	3 水溶性苦土を保証		かつ、600マイクロメ
	するものにあつて		ートルの網ふるいを
	は		60%以上通過するこ
	水溶性苦土 1.0		と。
	八1 可溶性マンガン		十一 要植害確認原料
	を保証するものに		を使用する肥料を原
	あつては		料として使用する肥
	可溶性マンガン		料にあつては、要植
	0.005		害確認原料が法第七
	2 く溶性マンガンを		条ただし書の規定に
	保証するものにあ		基づき植害試験の調
	つては		査を受け害が認めら
	く溶性マンガン		れないものであるこ
	0.005		と。
	3 水溶性マンガンを		十二 登録の有効期間
	保証するものにあ		は、三年原料又は三
	つては		年肥料等を使用する
	水溶性マンガン		肥料にあつては三
	0.005		年、三年原料又は三
	九1 く溶性ほう素を		年肥料等を使用しな
	保証するものにあ		い肥料にあつては六
	つては		年である。
	く溶性ほう素		
	0.005		

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
	2 水溶性ほう素を保		
	証するものにあつ		
	ては		
	水溶性ほう素		
	0.005		
	十 一から九までに掲		
	げるもののほか可溶		
	性硫黄を保証するも		
	のにあつては、一か		
	ら九までに掲げるも		
	ののほか		
	可溶性硫黄 1.0		
吸着複合肥料(窒素、りん酸	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 窒素全量を保証す
若しくは加里を含有する肥料	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	る肥料は、アンモニ
(混合汚泥複合肥料及び規則	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	ア性窒素又は硝酸性
第一条の二各号に掲げる普通	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	窒素以外の成分形態
肥料を除く。)又は肥料原料	いずれか二以上につい	につき	の窒素を含有するも
(原料規格第一及び原料規格	てそれぞれの最も大き	硫青酸化物 0.005	の並びにアンモニア
第二に掲げるものに限り、要	い主成分の量の合計量	ひ素 0.002	性窒素及び硝酸性窒
植害確認原料並びに原料規格	2. 0	亜硝酸 0.02	素を含有するもので
第二中十五の項及び十六の項		ビウレット性窒素	あること。
に掲げるものを除く。)の水		0. 01	二 りん酸全量又は加
溶液をけいそう土その他の吸		スルファミン酸	里全量を保証する肥
   着原料に吸着させたものをい		0.005	料は、動植物質の原
う。)		カドミウム 0.000075	料を使用したもので
			あること。
			三 く溶性りん酸を含
			有する原料及び可溶
			性りん酸を含有する
			原料を使用する肥料
			にあつては、く溶性
			りん酸又は可溶性り
			ん酸のいずれか一を
			保証するものである
			にと。
			四アルカリ分を含有
			四 ノルカリガを百月

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	する原料及び石灰を
			含有する原料を使用
			する肥料にあつて
			は、アルカリ分又は
			石灰のいずれかーを
			保証するものである
			こと。
			五 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			六 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用するもの
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年原料又は三
			年肥料等を使用する
			肥料にあつては三
			年、三年原料又は三

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ガロ イイ <b>マ</b> ク 1年 秋	小量 (%)	成分の最大量(%)	C 47 图 47 图 47 图
			年肥料等を使用しな
			い肥料にあつては六
			年である。
家庭園芸用複合肥料(肥料	一 窒素、りん酸又は	窒素、りん酸又は加	一 窒素全量を保証す
(混合汚泥複合肥料及び規則	加里のいずれか二以	里のそれぞれの最も	る肥料は、アンモニ
第一条の二各号に掲げる普通	上についてそれぞれ	大きい主成分の量の	ア性窒素又は硝酸性
肥料を除く。)又は肥料原料	の最も大きい主成分	合計量の含有率1.0%	窒素以外の形態の窒
(原料規格第一及び原料規格	の量の合計量	につき	素を含有するもの並
第二に掲げるものに限り、要	0.	有害成分別表第二の	びにアンモニア性窒
植害確認原料並びに原料規格	二1 窒素全量を保証	とおり	素及び硝酸性窒素を
第二中十五の項及び十六の項	するものにあつて		含有するものである
に掲げるものを除く。)を使	は		こと。
用したものであつて、規則第	室素全量 0.1		二 りん酸全量又は加
一条の三に規定する家庭園芸	2 アンモニア性窒素		里全量を保証する肥
用肥料であるものをいう。)	を保証するものに		料は、動植物質の原
	あつては		料を使用したもので
	アンモニア性窒素		あること。
	0.1		三 く溶性りん酸を含
	3 硝酸性窒素を保証		有する原料及び可溶
	するものにあつて		性りん酸を含有する
	は		原料を使用する肥料
	硝酸性窒素 0.1		にあつては、く溶性
	三1 りん酸全量を保		りん酸又は可溶性り
	証するものにあつ		ん酸のいずれか一を
	ては		保証するものである
	りん酸全量 0.1		こと。
	2 く溶性りん酸を保		四 アルカリ分を含有
	証するものにあつ		する原料及び石灰を
	ては		含有する原料を使用
	く溶性りん酸 0.1		する肥料にあつて
	3 可溶性りん酸を保		は、アルカリ分又は
	証するものにあつ		石灰のいずれか一を
	ては		保証するものである
	可溶性りん酸 0.1		こと。
	4 水溶性りん酸を保		五と畜場の排水処理
	証するものにあつ		施設から生じた汚泥

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	ては		を使用する場合にあ
	水溶性りん酸 0.1		つては、管理措置が
	四1 加里全量を保証		行われたものである
	するものにあつて		こと。
	は		六 牛等の部位を原料
	加里全量 0.1		とする場合にあつて
	2 く溶性加里を保証		は、脊柱等が混合し
	するものにあつて		ないものとして農林
	は		水産大臣の確認を受
	く溶性加里 0.1		けた工程において製
	3 水溶性加里を保証		造されたものである
	するものにあつて		こと。
	は		七 製鋼鉱さいを原料
	水溶性加里 0.1		とするものにあつて
	五 アルカリ分を保証		は、4ミリメートルの
	するものにあつては		網ふるいを全通する
	アルカリ分 5.0		ものであること。そ
	六 可溶性石灰、く溶		の他の鉱さいを原料
	性石灰又は水溶性石		とする場合にあつて
	灰を保証するものに		は、2ミリメートルの
	あつては		網ふるいを全通し、
	可溶性石灰 0.1		かつ、600マイクロメ
	く溶性石灰 0.1		ートルの網ふるいを
	水溶性石灰 0.1		60%以上通過するこ
	七1 可溶性けい酸を		と。
	保証するものにあ		八 要植害確認原料を
	つては		使用する肥料を原料
	可溶性けい酸 5.0		として使用する肥料
	2 水溶性けい酸を保		にあつては、要植害
	証するものにあつ		確認原料が法第七条
	ては		ただし書の規定に基
	水溶性けい酸 5.0		づき植害試験の調査
	八1 可溶性苦土を保		を受け害が認められ
	証するものにあつ		ないものであるこ
	ては		と。
	可溶性苦土 0.01		九登録の有効期間

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
11 イイ・ソ 性 類	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の削収事項
	2 く溶性苦土を保証		は、三年原料又は三
	するものにあつて		年肥料等を使用する
	は		肥料にあつては三
	く溶性苦土 0.01		年、三年原料又は三
	3 水溶性苦土を保証		年肥料等を使用しな
	するものにあつて		い肥料にあつては六
	は		年である。
	水溶性苦土 0.01		
	九1 可溶性マンガン		
	を保証するものに		
	あつては		
	可溶性マンガン		
	0.001		
	2 く溶性マンガンを		
	保証するものにあ		
	つては		
	く溶性マンガン		
	0. 001		
	3 水溶性マンガンを		
	保証するものにあ		
	つては		
	水溶性マンガン		
	0. 001		
	十1 く溶性ほう素を		
	保証するものにあ		
	つては		
	く溶性ほう素		
	0. 001		
	2 水溶性ほう素を保		
	証するものにあつ		
	ては		
	水溶性ほう素		
	0.001		
	十一 可溶性硫黄を保		
	証するものにあつて		
	は		

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
	可溶性硫黄 0.1		

#### 六 複合肥料

#### (1)登録の有効期間が六年であるもの

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量(%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
りん酸アンモニア	一 アンモニア性窒素	窒素及びりん酸の最	
りん政ノンモーノ			
	8.4		
	水溶性りん酸 37.1	の合計量の含有量	
	二 アンモニア性窒素		
	及び水溶性りん酸の		
	ほか可溶性りん酸を	カドミウム 0.000075	
	保証するものにあつ		
	ては		
	アンモニア性窒素		
	8. 4		
	可溶性りん酸 37.1		
	水溶性りん酸 30.0		
	三 アンモニア性窒素		
	及び水溶性りん酸の		
	ほかく溶性りん酸を		
	保証するものにあつ		
	ては		
	アンモニア性窒素		
	8. 4		
	く溶性りん酸 37.1		
	水溶性りん酸 30.0		
	硝酸性窒素 9.7	窒素及び加里の主成	
	水溶性加里 32.5	分の量の合計量の含	
		有率1.0%につき	
		   亜硝酸 0.02	
りん酸加里	水溶性りん酸 25.0	りん酸及び加里の主	
	水溶性加里 24.2	成分の量の合計量の	
		含有率1.0%につき	
		ひ素 0.002	
		カドミウム 0.000075	
		74 1 7 7 4 0.000010	

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
りん酸マグネシウムアンモニ	アンモニア性窒素 4.0	窒素及びりん酸の主	
ウム	く溶性りん酸 20.0	成分の量の合計量の	
	く溶性苦土 11.5	含有率1.0%につき	
		ひ素 0.002	
		カドミウム 0.000075	
		ニッケル 0.005	
		クロム 0.05	
		水銀 0.00005	
		鉛 0.003	
熔成複合肥料	一 く溶性りん酸 12.0	りん酸及び加里の主	一 2ミリメートルの網
(次に掲げる肥料をいう。	く溶性加里 1.0	成分の量の合計量の	ふるいを全通するこ
一 肥料(混合汚泥複合肥料	二 く溶性りん酸及び	含有率1.0%につき	と。
及び規則第一条の二各号に掲	く溶性加里のほかア	ひ素 0.002	二 下水道の終末処理
げる普通肥料を除く。) 又は	ルカリ分、可溶性け	カドミウム 0.000075	場から生じる汚泥を
肥料原料(汚泥及び魚介類の	い酸又はく溶性苦土	ニッケル 0.005	原料とする場合にあ
臓器を除く。)を配合し、熔	を保証するものにあ	クロム 0.05	つては、植害試験の
融したもの	つては、一に掲げる	チタン 0.02	調査を受け害が認め
二 下水道の終末処理場から	もののほか	水銀 0.00005	られないものである
生じる汚泥を焼成したものに	アルカリ分について	鉛 0.003	こと。
肥料又は肥料原料を混合し、	は 40.0		三 と畜場の排水処理
熔融したもの)	可溶性けい酸につい		施設から生じた汚泥
	ては 10.0		を使用する場合にあ
	く溶性苦土について		つては、管理措置が
	は 12.0		行われたものである
			こと。
			四 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。

## (2) 登録の有効期間が三年であるもの

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	7 の他の地間書店
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
混合汚泥複合肥料(窒素質肥	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 く溶性りん酸を含
料、りん酸質肥料、加里質肥	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	有する肥料及び可溶
料、有機質肥料、副産肥料	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	性りん酸を含有する
等、複合肥料、石灰質肥料、	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	肥料を原料として使
けい酸質肥料、苦土質肥料、	いずれか二以上につい	につき	用する肥料にあつて
マンガン質肥料、ほう素質肥	てそれぞれの最も大き	有害成分別表第二の	は、く溶性りん酸又
料又は微量要素複合肥料に次	い主成分の量の合計量	とおり	は可溶性りん酸のい
のいずれかを混合し、造粒又	2.0		ずれか一を保証する
は成形したものをいう。			ものであること。
一 汚泥肥料 (次のいずれか			二 アルカリ分を含有
を堆積又はかくはんし、腐			する肥料及び石灰を
熟させたものに限る。次号			含有する肥料を原料
において同じ。)			として使用する肥料
ア し尿処理施設から生じ			にあつては、アルカ
た汚泥を濃縮、消化、脱			リ分又は石灰のいず
水又は乾燥したもの			れか一を保証するも
イ 動物の排せつ物に凝集			のであること。
を促進する材料(昭和二			三 可溶性マンガンを
十五年六月二十日農林省			保証する肥料は、可
告示第百七十七号(特殊			溶性マンガンを保証
肥料等を指定する件)の			する肥料を原料とし
別表第一に掲げる凝集促			て使用したものであ
進材を除く。原料規格第			ること。
二中十六の項及び原料規			四 汚泥肥料は、乾物
格第三中二の項において			として40%以下を使
同じ。)若しくは悪臭を			用すること。
防止する材料を混合し、			五 と畜場の排水処理
脱水若しくは乾燥したも			施設から生じた汚泥
のに動物の排せつ物を混			を使用する場合にあ
合したもの又はこれを乾			つては、管理措置が
燥したもの			行われたものである
二 動物の排せつ物の燃焼灰			こと。
(鶏ふん燃焼灰に限る。)			六 要植害確認原料を
及び一に掲げる汚泥肥料)			使用する肥料を原料
			として使用するもの

肥料の種	類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
				にあつては、要植害
				確認原料が法第七条
				ただし書の規定に基
				づき植害試験の調査
				を受け害が認められ
				ないものであるこ
				と。

#### (3) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

(3)登録の有効期間が三	三年又は六年であるもの	)	
	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	2.の仏の制門東西
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
化成肥料(次に掲げる肥料を	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 窒素全量を保証す
いう。	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	る肥料は、アンモニ
一 窒素質肥料、りん酸質肥	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	ア性窒素又は硝酸性
料、加里質肥料、有機質肥	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	窒素以外の成分形態
料、副産肥料等、複合肥	いずれか二以上につい	につき	の窒素を含有するも
料、石灰質肥料、けい酸質	てそれぞれの最も大き	有害成分別表第二の	の並びにアンモニア
肥料、苦土質肥料、マンガ	い主成分の量の合計量	とおり	性窒素及び硝酸性窒
ン質肥料、ほう素質肥料又	2. 0		素を含有するもので
は微量要素複合肥料のいず			あること。
れか二以上を配合し、造粒			二 りん酸全量又は加
又は成形したもの			里全量を保証する肥
二 一に掲げる化成肥料の原			料は、動植物質の原
料となる肥料に米ぬか、発			料を使用したもので
酵米ぬか、乾燥藻及びその			あること。
粉末、発酵乾ぷん肥料、よ			三 く溶性りん酸を含
もぎかす、骨灰、動物の排			有する肥料及び可溶
せつ物(鶏ふんの炭化物に			性りん酸を含有する
限る。)又は動物の排せつ			肥料を原料として使
物の燃焼灰(鶏ふん燃焼灰			用する肥料にあつて
又は牛の排せつ物と鶏ふん			は、く溶性りん酸又
との混合物の燃焼灰に限			は可溶性りん酸のい
る。)のいずれか一以上を			ずれか一を保証する
配合し、造粒又は成形した			ものであること。
もの			四 アルカリ分を含有
三 肥料(混合汚泥複合肥料			する肥料及び石灰を

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
)L 19 V) 1E X	小量 (%)	成分の最大量(%)	C 97 匝 97 间
及び規則第一条の二各号に			含有する肥料を原料
掲げる普通肥料を除く。)			として使用する肥料
又は肥料原料(原料規格第			にあつては、アルカ
一及び原料規格第二に掲げ			リ分又は石灰のいず
るものに限り、三年原料並			れか一を保証するも
びに原料規格第二中十五の			のであること。
項及び十六の項に掲げるも			五 と畜場の排水処理
のを除く。)を使用し、こ			施設から生じた汚泥
れに化学的操作を加えたも			を使用する場合にあ
0			つては、管理措置が
四 三に掲げる化成肥料を配			行われたものである
合し、造粒又は成形したも			こと。
0			六 牛等の部位を原料
五 一若しくは二に掲げる化			とする場合にあつて
成肥料又はその原料となる			は、脊柱等が混合し
肥料若しくはその原料とな			ないものとして農林
る肥料を配合したものに三			水産大臣の確認を受
に掲げる化成肥料、その化			けた工程において製
成肥料を配合したもの又は			造されたものである
四に掲げる化成肥料を配合			こと。
し、造粒又は成形したも			七 要植害確認原料を
<b>の</b> )			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年原料又は三
			年肥料等を使用する
			肥料にあつては三
			年、三年原料又は三
			年肥料等を使用しな

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			い肥料にあつては六
			年である。
混合動物排せつ物複合肥料	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 く溶性りん酸を含
(窒素質肥料、りん酸質肥	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	有する肥料及び可溶
料、加里質肥料、有機質肥	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	性りん酸を含有する
料、副産肥料等、複合肥料、	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	肥料を原料として使
石灰質肥料、けい酸質肥料、	いずれか二以上につい	につき	用する肥料にあつて
苦土質肥料、マンガン質肥	てそれぞれの最も大き	有害成分別表第二の	は、く溶性りん酸又
料、ほう素質肥料又は微量要	い主成分の量の合計量	とおり	は可溶性りん酸のい
素複合肥料に動物の排せつ物	2. 0		ずれか一を保証する
(牛又は豚の排せつ物を加熱			ものであること。
乾燥したものに限る。)を混			二 アルカリ分を含有
合し、造粒又は成形したもの			する肥料及び石灰を
をいう。)			含有する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、アルカ
			リ分又は石灰のいず
			れか一を保証するも
			のであること。
			三 可溶性マンガンを
			保証する肥料は、可
			溶性マンガンを保証
			する肥料を原料とし
			て使用したものであ
			ること。
			四 動物の排せつ物
			(牛又は豚の排せつ
			物を加熱乾燥したも
			のに限る。)は、乾
			物として窒素全量が
			2.0%以上であり、か
			つ、窒素全量、りん
			酸全量又は加里全量
			の合計量が5.0%以上
			であること。
			五 動物の排せつ物

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	V (/*/	7,77,7	(牛又は豚の排せつ
			物を加熱乾燥したも
			のに限る。)は、乾
			物として70%以下を
			使用すること。
			六 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。
混合堆肥複合肥料(次に掲げ	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 く溶性りん酸を含
る肥料をいう。	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	有する肥料及び可溶
一 窒素質肥料、りん酸質肥	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	性りん酸を含有する
料、加里質肥料、有機質肥	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	肥料を原料として使
料、副産肥料等、複合肥	いずれか二以上につい	につき	用する肥料にあつて
料、石灰質肥料、けい酸質	てそれぞれの最も大き	有害成分別表第二の	は、く溶性りん酸又
肥料、苦土質肥料、マンガ	い主成分の量の合計量	とおり	は可溶性りん酸のい

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ルロ 4名 マク 1里 規	小量 (%)	成分の最大量(%)	C 97 匝 97 间
ン質肥料、ほう素質肥料又	2. 0		ずれかーを保証する
は微量要素複合肥料に堆肥			ものであること。
(動物の排せつ物又は食品			二 アルカリ分を含有
由来の有機質物を主原料と			する肥料及び石灰を
するものに限る。) を混合			含有する肥料を原料
し、造粒又は成形後、加熱			として使用する肥料
乾燥したもの			にあつては、アルカ
二 窒素質肥料、りん酸質肥			リ分又は石灰のいず
料、加里質肥料、有機質肥			れか一を保証するも
料、副産肥料等、複合肥			のであること。
料、石灰質肥料、けい酸質			三 可溶性マンガンを
肥料、苦土質肥料、マンガ			保証する肥料は、可
ン質肥料、ほう素質肥料又			溶性マンガンを保証
は微量要素複合肥料に米ぬ			する肥料を原料とし
か、発酵米ぬか、乾燥藻及			て使用したものであ
びその粉末、発酵乾ぷん肥			ること。
料、よもぎかす、骨灰、動			四 堆肥(動物の排せ
物の排せつ物(鶏ふんの炭			つ物を主原料とする
化物に限る。)又は動物の			ものに限る。)を原
排せつ物の燃焼灰(鶏ふん			料とする場合にあつ
燃焼灰に限る。)のいずれ			ては、乾物として窒
か一以上及び堆肥(動物の			素全量が2.0%以上で
排せつ物又は食品由来の有			あり、かつ、窒素全
機質物を主原料とするもの			量、りん酸全量又は
に限る。)を混合し、造粒			加里全量の合計量
又は成形後、加熱乾燥した			5.0%以上であるこ
もの)			と。
			五 堆肥(食品由来の
			有機質物を主原料と
			するものに限る。)
			を原料とする場合に
			あつては、乾物とし
			て窒素全量が3.0%以
			上であり、かつ、窒
			素全量、りん酸全量
			又は加里全量の合計

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	小事 (/0)	成为少取八里(/0)	量が5.0%以上である
			こと。
			六 と畜場の排水処理
			施設から生じた汚泥
			を使用する場合にあ
			つては、管理措置が
			行われたものである
			こと。
			七 牛等の部位を原料
			とする場合にあつて
			は、脊柱等が混合し
			ないものとして農林
			水産大臣の確認を受
			けた工程において製
			造されたものである
			こと。
			八 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			九 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
h attach marks at a second	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		る。
成形複合肥料(窒素質肥料、	主成分別表第一のとお	窒素、りん酸又は加	一 窒素全量を保証す
りん酸質肥料、加里質肥料、	り。ただし、同表の記	里のそれぞれの最も	る肥料は、アンモニ

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量 (%)	その他の制限事項
	載にかかわらず、窒	大きい主成分の量の	ア性素又は硝酸性窒
合肥料、石灰質肥料、けい酸	素、りん酸又は加里の	合計量の含有率1.0%	素以外の成分形態の
質肥料、苦土質肥料、マンガ	いずれか二以上につい	につき	窒素を含有するもの
  ン質肥料、ほう素質肥料若し	てそれぞれの最も大き	有害成分別表第二の	並びにアンモニア性
くは微量要素複合肥料に木質	   い主成分の量の合計量	とおり	窒素及び硝酸性窒素
   泥炭、紙パルプ廃繊維、草炭	2. 0		を含有するものであ
質腐植、流紋岩質凝灰岩粉末			ること。
又はベントナイトのいずれか			二 りん酸全量又は加
一を混合し、造粒又は成形し			里全量を保証する肥
たものをいう。)			料は、動植物質の原
			料を使用したもので
			あること。
			三 く溶性りん酸を含
			有する肥料及び可溶
			性りん酸を含有する
			肥料を原料として使
			用する肥料にあつて
			は、く溶性りん酸又
			は可溶性りん酸のい
			ずれか一を保証する
			ものであること。
			四 アルカリ分を含有
			する肥料及び石灰を
			含有する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、アルカ
			リ分又は石灰のいず
			れか一を保証するも
			のであること。
			五 可溶性マンガンを
			保証する肥料は、可
			溶性マンガンを保証
			する肥料を原料とし
			て使用したものであ
			ること。
			六 木質泥炭(乾物1グ

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	To the or the PID
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
			ラム当たり0.02モル
			毎リットルの過マン
			ガン酸カリウム溶液
			の消費量が100ミリリ
			ットル相当以上の腐
			植を含有するもの)
			は、乾物として20%
			以上45%以下を使用
			すること。
			七 紙パルプ廃繊維
			(紙パルプ工場の廃
			水から得られる廃繊
			維で、乾物当たりホ
			ロセルロースを55%
			以上含有するもの)
			は、乾物として25%
			以上40%以下を使用
			すること。
			八 草炭質腐植(草炭
			を水洗分離して得ら
			れる腐植で、乾物当
			たり灰分の含量が
			20%以下のもの)
			は、乾物として10%
			以上25%以下を使用
			すること。
			九 流紋岩質凝灰岩粉
			末(乾物100グラム当
			たり陽イオン交換容
			量130ミリグラム当量
			以上を有するもの)
			は、25%以上35%以
			下を使用すること。
			十 ベントナイト(乾
			物100グラム当たり陽
			イオン交換容量50ミ

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	小事 (/0)	双刀 少取八里(/6)	リグラム当量以上を
			有するもの)は、
			25%以上35%以下を
			使用すること。
			十一 と畜場の排水処
			理施設から生じた汚
			泥を使用する場合に
			あつては、管理措置
			が行われたものであ
			ること。
			十二 要植害確認原料
			を使用する肥料を原
			料として使用するも
			のにあつては、要植
			害確認原料が法第七
			条ただし書の規定に
			基づき植害試験の調
			査を受け害が認めら
			れないものであるこ
			と。
			十三 登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。
被覆複合肥料(化成肥料又は	一 窒素及び水溶性り	窒素、りん酸又は加	一 窒素は、水溶性で
液状肥料を硫黄その他の被覆	ん酸又は水溶性加里	里のそれぞれの最も	あること。
原料で被覆したものをい	の主成分の量の合計	大きい主成分の量の	二 窒素の初期溶出率
う。)	量 10.0	合計量の含有率1.0%	は、50%以下である
	二1 窒素全量を保証	につき	こと。
	するものにあつて	硫青酸化物 0.005	三 と畜場の排水処理
	は	ひ素 0.002	施設から生じた汚泥
	室素全量 1.0	亜硝酸 0.02	を使用する場合にあ

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量(%)	成分の最大量(%)	っては 茨田州男ぶ
	2 アンモニア性窒素	ビウレット性窒素	つては、管理措置が
	を保証するものに	0.01	行われたものである
	あつては	スルファミン酸	
	アンモニア性窒素	0.005	四 要植害確認原料を
	1.0	カドミウム 0.000075	使用する肥料を原料
	3 硝酸性窒素を保証		として使用する肥料
	するものにあつて		にあつては、要植害
	は		確認原料が法第七条
	硝酸性窒素 1.0		ただし書の規定に基
	三 水溶性りん酸を保		づき植害試験の調査
	証するものにあつて		を受け害が認められ
	は		ないものであるこ
	水溶性りん酸 1.0		と。
	四 水溶性加里を保証		五登録の有効期間
	するものにあつては		は、三年肥料等を原
	水溶性加里 1.0		料として使用する肥
	五 水溶性石灰を保証		料にあつては三年、
	するものにあつては		三年肥料等を原料と
	水溶性石灰 1.0		して使用しない肥料
	六 水溶性けい酸を保		にあつては六年であ
	証するものにあつて		る。
	は		
	水溶性けい酸 1.0		
	七 水溶性苦土を保証		
	するものにあつては		
	水溶性苦土 1.0		
	八 水溶性マンガンを		
	保証するものにあつ		
	ては		
	水溶性マンガン 0.10		
	九 水溶性ほう素を保		
	証するものにあつて		
	は		
	水溶性ほう素 0.05		
	十 可溶性硫黄を保証		
	するものにあつては		

m 刈 の 括 粨	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の判別東西
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	可溶性硫黄 1.0		
配合肥料(次に掲げる肥料を	一 窒素、りん酸又は	窒素、りん酸又は加	一 窒素全量を保証す
いう。	加里のいずれか二以	里のそれぞれの最も	る肥料は、アンモニ
一 窒素質肥料、りん酸質肥	上についてそれぞれ	大きい主成分の量の	ア性窒素又は硝酸性
料、加里質肥料、有機質肥	の最も大きい主成分	合計量の含有率1.0%	窒素以外の成分形態
料、副産肥料等、複合肥	の量の合計量 2.0	につき	の窒素を含有するも
料、石灰質肥料、けい酸質	二1 窒素全量を保証	有害成分別表第二の	の並びにアンモニア
肥料、苦土質肥料、マンガ	するものにあつて	とおり	性窒素及び硝酸性窒
ン質肥料、ほう素質肥料又	は		素を併せて含有する
は微量要素複合肥料のいず	室素全量 1.0		ものであること。
れか二以上を配合したもの	2 アンモニア性窒素		二 りん酸全量又は加
二 一に掲げる配合肥料の原	を保証するものに		里全量を保証する肥
料となる肥料に米ぬか、発	あつては		料は、動植物質の原
酵米ぬか、乾燥藻及びその	アンモニア性窒素		料を使用したもので
粉末、発酵乾ぷん肥料、グ	1.0		あること。
アノ(りん酸のく溶率50%	3 硝酸性窒素を保証		三 く溶性りん酸を含
以上のもので造粒又は成形	するものにあつて		有する肥料及び可溶
しないものに限る。)、よ	は		性りん酸を含有する
もぎかす、骨灰、動物の排	硝酸性窒素 1.0		肥料を原料として使
せつ物(鶏ふんの炭化物に	三1 りん酸全量を保		用する肥料にあつて
限る。)又は動物の排せつ	証するものにあつ		は、く溶性りん酸又
物の燃焼灰(鶏ふん燃焼灰	ては		は可溶性りん酸のい
又は牛の排せつ物と鶏ふん	りん酸全量 1.0		ずれか一を保証する
との混合物の燃焼灰に限	2 く溶性りん酸を保		ものであること。
る。)のいずれか一以上を	証するものにあつ		四 アルカリ分を含有
配合したもの	ては		する肥料及び石灰を
三 化成肥料を配合したも	く溶性りん酸 1.0		含有する肥料を原料
の)	3 可溶性りん酸を保		として使用する肥料
	証するものにあつ		にあつては、アルカ
	ては		リ分又は石灰のいず
	可溶性りん酸 1.0		れか一を保証するも
	4 水溶性りん酸を保		のであること。
	証するものにあつ		五 可溶性マンガンを
	ては		保証する肥料は、可
	水溶性りん酸 1.0		溶性マンガンを保証
	四1 加里全量を保証		する肥料を原料とし

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量(%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	するものにあつて		て使用したものであ
	は		ること。
	加里全量 1.0		六 と畜場の排水処理
	2 く溶性加里を保証		施設から生じた汚泥
	するものにあつて		を使用する場合にあ
	は		つては、管理措置が
	く溶性加里 1.0		行われたものである
	3 水溶性加里を保証		こと。
	するものにあつて		七 牛等の部位を原料
	は		とする場合にあつて
	水溶性加里 1.0		は、脊柱等が混合し
	五 アルカリ分を保証		ないものとして農林
	するものにあつては		水産大臣の確認を受
	アルカリ分 5.0		けた工程において製
	六1 可溶性石灰を保		造されたものである
	証するものにあつ		こと。
	ては		八 要植害確認原料を
	可溶性石灰 1.0		使用する肥料を原料
	2 く溶性石灰を保証		として使用する肥料
	するものにあつて		にあつては、要植害
	は		確認原料が法第七条
	く溶性石灰 1.0		ただし書の規定に基
	3 水溶性石灰を保証		づき植害試験の調査
	するものにあつて		を受け害が認められ
	は		ないものであるこ
	水溶性石灰 1.0		と。
	七1 可溶性けい酸を		九 登録の有効期間
	保証するものにあ		は、三年肥料等を原
	つては		料として使用する肥
	可溶性けい酸 5.0		料にあつては三年、
	2 水溶性けい酸を保		三年肥料等を原料と
	証するものにあつ		して使用しない肥料
	ては		にあつては六年であ
	水溶性けい酸 5.0		る。
	八1 可溶性苦土を保		
	証するものにあつ		

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の前限事項
	ては		
	可溶性苦土 1.0		
	2 く溶性苦土を保証		
	す るものにあつ		
	ては		
	く溶性苦土 1.0		
	3 水溶性苦土を保証		
	するものにあつて		
	は		
	水溶性苦土 1.0		
	九1 可溶性マンガン		
	を保証するものに		
	あつては		
	可溶性マンガン		
	0.005		
	2 く溶性マンガンを		
	保証するものにあ		
	つては		
	く溶性マンガン		
	0.005		
	3 水溶性マンガンを		
	保証するものにあ		
	つては		
	水溶性マンガン		
	0.005		
	十1 く溶性ほう素を		
	保証するものにあ		
	つては		
	く溶性ほう素		
	0.005		
	2 水溶性ほう素を保		
	証するものにあつ		
	ては		
	水溶性ほう素		
	0.005		
	十一 可溶性硫黄を保		

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量 (%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
	証するものにあつて		
	は		
	可溶性硫黄 1.0		

## 七 石灰質肥料

# (1) 登録の有効期間が六年であるもの

   肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
// /11	小量 (%)	成分の最大量(%)	しくと   回く   回く   一
生石灰	一 アルカリ分 80.0		
(マグネシウムの酸化物又は	二 アルカリ分のほか		
水酸化物を混合したものを含	可溶性苦土又はく溶		
む。)	性苦土を保証するも		
	のにあつては、一に		
	掲げるもののほか		
	可溶性苦土について		
	は 8.0		
	く溶性苦土について		
	は 7.0		
消石灰(マグネシウムの酸化	一 アルカリ分 60.0		
物又は水酸化物を混合したも	二 アルカリ分のほか		
のを含む。)	可溶性苦土又はく溶		
	性苦土を保証するも		
	のにあつては、一に		
	掲げるもののほか		
	可溶性苦土について		
	は 6.0		
	く溶性苦土について		
	は 5.0		
炭酸カルシウム肥料(マグネ	一 アルカリ分 50.0		化学的に生産された炭
シウムの酸化物又は水酸化物	二 アルカリ分のほか		酸カルシウム以外のも
を混合したものを含む。)	可溶性苦土又はく溶		のにあつては、1.7ミリ
	性苦土を保証するも		メートルの網ふるいを
	のにあつては、一に		全通し、600マイクロメ
	掲げるもののほか		ートルの網ふるいを
	可溶性苦土について		85%以上通過するこ
	は 5.0		と。

	<u> </u>	<u> </u>	
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
	く溶性苦土について		
	は 3.5		
貝化石肥料(貝化石粉末又は	一 アルカリ分 35.0		
これにマグネシウムの酸化物	二 アルカリ分のほか		
若しくは水酸化物を混合し、	く溶性苦土を保証す		
造粒したものをいう。)	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カゝ		
	く溶性苦土 1.0		
硫酸カルシウム(りん酸を生	一 可溶性石灰、く溶	可溶性石灰、く溶性	
産する際に副産されるものに	性石灰又は水溶性石	石灰又は水溶性石灰	
限る。)	灰のいずれかーにつ	の含有率1.0%につき	
	いて 1.0	ひ素 0.004	
	二 可溶性石灰、く溶	スルファミン酸	
	性石灰又は水溶性石	0.01	
	灰のほか可溶性硫黄		
	を保証するものにあ		
	つては		
	可溶性硫黄 1.0		
副産石灰肥料(非金属鉱業、	一 アルカリ分 35.0	一 アルカリ分の含	鉱さいを原料として使
食品工業、パルプ工業、化学	二 アルカリ分のほか	有率1.0%につき	用するものにあつて
工業、鉄鋼業又は非鉄金属製	く溶性苦土を保証す	ニッケル 0.01	は、1.7ミリメートルの
造業において副産されたもの	るものにあつては、	クロム 0.1	網ふるいを全通し、600
をいう	一に掲げるもののほ	チタン 0.04	マイクロメートルの網
	カュ	二 最大限度量	ふるいを85%以上通過
	く溶性苦土 1.0	ニッケル 0.4	すること。
		クロム 4.0	
		チタン 1.5	

# (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の前限事項
混合石灰肥料(石灰質肥料	主成分別表第一のとお	一 窒素を保証し、	一 窒素全量を保証す
に、有機質肥料、副産肥料	り。ただし、同表の記	りん酸又は加里を	る肥料は、アンモニ
等、石灰質肥料、けい酸質肥	載にかかわらず、アル	保証しないものに	ア性窒素又は硝酸性
料、苦土質肥料、マンガン質	カリ分については	あつては、窒素全	窒素以外の成分形態

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
肥料、ほう素質肥料又は微量	5.0	量、アンモニア性	の窒素を含有するも
要素複合肥料を混合したもの	0.0	室素、硝酸性窒素	の並びにアンモニア
安米核日配付を配日したものをいう。)		型	性窒素及び硝酸性窒
( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (		室素及び硝酸性窒	素を含有するもので
		素の合計量のうち	あること。
		最も大きいものの	二りん酸全量又は加
		含有率1.0%につき	里全量を保証する肥
		有害成分別表第一	料は、動植物質の原
		のとおり	料を使用したもので
		二の人酸又は加里	あること。
		のいずれか一を保	三く溶性りん酸を含
		証し、窒素を保証	有する肥料及び可溶
		しないものにあつ	性りん酸を含有する
		ては、保証する主	肥料を原料として使
		成分のうち最も大	用する肥料にあつて
		きい主成分の量の	は、く溶性りん酸又
		合計量の含有率	は可溶性りん酸のい
		1.0%につき	ずれか一を保証する
		有害成分別表第二	ものであること。
		のとおり	四 アルカリ分を含有
		三 窒素、りん酸又	する肥料及び石灰を
		は加里のうち、い	含有する肥料を原料
		ずれか二以上を保	として使用する肥料
		証するものにあつ	にあつては、アルカ
		ては、窒素、りん	リ分又は石灰のいず
		酸又は加里のそれ	れか一を保証するも
		ぞれの最も大きい	のであること。
		主成分の量の合計	五 可溶性マンガンを
		量の含有率1.0%に	保証する肥料は、可
		つき	溶性マンガンを保証
		有害成分別表第二	する肥料を原料とし
		のとおり	て使用したものであ
		四 窒素、りん酸及	ること。
		び加里を保証しな	六 と畜場の排水処理
		いものにあつて	施設から生じた汚泥
		は、アルカリ分の	を使用する場合にあ

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
		含有率1.0%につき	つては、管理措置が
		有害成分別表第一	行われたものである
		のとおり	こと。
			七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。

# 八 けい酸質肥料

## (1) 登録の有効期間が六年であるもの

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	2.の他の制門事項
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
けい灰石肥料	可溶性けい酸 20.0		2ミリメートルの網ふる
	アルカリ分 25.0		いを全通し、600マイク
			ロメートルの網ふるい
			を60%以上通過するこ
			と。
鉱さいけい酸質肥料(製りん	一 可溶性けい酸及び	一 可溶性けい酸が	一 可溶性けい酸が
残さい又は製銑鉱さい等の鉱	アルカリ分を保証す	20%以上のものに	20%以上のものにあ
さいをいい、ほう素質肥料を	るものにあつては	あつては	つては、2ミリメート
混合して熔融したものを含	可溶性けい酸 10.0	1 可溶性けい酸	ルの網ふるいを全通
む。)	アルカリ分 35.0	の含有率1.0%	し、かつ、水砕した

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最		その他の制限事項
	小量 (%)	成分の最大量(%)	
	二 可溶性けい酸及び	につき	鉱さい以外のものに
	アルカリ分のほかく	ニッケル 0.01	あつては、600マイク
	溶性苦土、く溶性マ	クロム 0.1	ロメートルの網ふる
	ンガン又はく溶性ほ	チタン 0.04	いを60%以上通過す
	う素を保証するもの	2 最大限度量	ること。
	にあつては	ニッケル 0.4	二 一以外のものにあ
	可溶性けい酸 10.0	クロム 4.0	つては、2ミリメート
	アルカリ分 20.0	チタン 1.5	ルの網ふるいを全通
	く溶性苦土について	二 一以外のものに	し、かつ、可溶性石
	は 1.0	あつては最大限度	灰を40%以上含有す
	く溶性マンガンにつ	量	る鉱さいであるこ
	いては 1.0	ニッケル 0.2	と。
	く溶性ほう素につい	クロム 2.0	三 アルカリ分が30%
	ては 0.05	チタン 1.0	未満のものにあって
			は、アルカリ分を
			30%以上保証する鉱
			さいけい酸質肥料に
			赤鉄鉱を加えたもの
			であること。
軽量気泡コンクリート粉末肥	可溶性けい酸 15.0	最大限度量	4ミリメートルの網ふる
料	アルカリ分 15.0	チタン 1.0	いを全通すること。
シリカゲル肥料(水ガラスの	可溶性けい酸 80.0		一 日本産業規格
アルカリを中和し、ゲル化し			(JISZ0701)に規定
てから脱水したものをい			された包装用シリカ
う。)			ゲル乾燥剤として生
			産されたものである
			こと。
			二 75マイクロメート
			ルの網ふるい上に
			70%以上残留するこ
			と。
			三 検湿剤等他の原料
			を使用したもの及び
			他の用途に使用され
			たものを除く。
シリカヒドロゲル肥料(水ガ	可溶性けい酸 17.0		一 摂氏180度で3時間

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
ラスのアルカリを中和し、ゲ			乾燥したものが、日
ル化したものをいう。)			本産業規格
			(JISZ0701)に規定
			された包装用シリカ
			ゲル 乾燥剤に該当す
			るものであること。
			二 検湿剤等他の原料
			を使用したものを除
			< ∘

#### (2) 登録の有効期間が三年であるもの

(2) 登録の有効期間が二年であるもの					
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項		
72 11 12 72	小量 (%)	成分の最大量(%)	0 1 12 1 11 11 11 1		
よう    おきにい動所皿や  (	一 可溶性けい酸 20.0	一 可溶性けい酸の	一 日本産業規格		
熔成けい酸質肥料(廃棄物の	アルカリ分 30.0	含有率1.0%につき	( JISA5031 又 は		
処理及び清掃に関する法律	二 可溶性けい酸及び	ひ素 0.004	JISA5032)に規定さ		
(昭和四十五年法律第百三十	アルカリ分のほかく	カドミウム	れた溶融スラグ又は		
七号。以下「廃掃法」とい	溶性苦土を保証する	0. 00015	熔融スラグ骨材に該		
う。)第二条第二項に規定す	ものにあつては、一	ニッケル 0.01	当するものであるこ		
る一般廃棄物、同条第四項に	に掲げるもののほか	クロム 0.1	と。		
規定する産業廃棄物又はそれ	く溶性苦土 1.0	チタン 0.04	二 廃掃法第二条第四		
らの焼却灰を溶融したものを		水銀 0.0001	項第一号に規定する		
いう。)		鉛 0.006	汚泥及び廃プラスチ		
		二 最大限度量	ック類並びに廃棄物		
		ニッケル 0.4	の処理及び清掃に関		
		クロム 4.0	する法律施行令(昭		
		チタン 1.5	和四十六年政令第三		
			百号) 第二条第一号		
			から第五号までに掲		
			げる廃棄物以外の廃		
			掃法第二条第四項に		
			規定する産業廃棄物		
			を原料として使用し		
			ないこと。		
			三 コークスベッド式		
			のシャフト炉式ガス		

肥料	の	種	類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
				小量 (%)	成分の最大量(%)	# No. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
						化溶融炉において、
						塩基性のカルシウム
						含有物を使用して溶
						融したものであるこ
						٤.
						四 溶融物を水砕した
						後、磁選機で金属を
						除去したものである
						こと。
						五 4.75ミリメートル
						の網ふるいを全通
						し、2ミリメートルの
						網ふるいを95%以上
						通過すること。
						六 植害試験の調査を
						受け害が認められな
						いものであること。
						七 と畜場の排水処理
						施設から生じた汚泥
						を使用する場合にあ
						つては、管理措置が
						行われたものである
						こと。
						八 牛等の部位を原料
						とする場合にあつて
						は、脊柱等が混合し
						ないものとして農林
						水産大臣の確認を受
						けた工程において製
						造されたものである
						こと。

# 九 苦土質肥料

### (1) 登録の有効期間が六年であるもの

	1 100 0 0		
肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ルロ 49 マノ 1里 大只	小量 (%)	成分の最大量(%)	C 4 / IE 4 / III / IV 事 发
硫酸苦土肥料	一 水溶性苦土 11.0	水溶性苦土の含有率	苦土含有物に硫酸を作
	二 水溶性苦土のほか	1.0%につき	用させて生じたものに
	可溶性硫黄を保証す	ひ素 0.004	あつては、く溶性苦土
	るものにあつては、		の含有量に対する水溶
	一に掲げるもののほ		性苦土の含有比率が0.8
	カュ		以上であること。
	可溶性硫黄 1.0		
水酸化苦土肥料	く溶性苦土 50.0		2ミリメートルの網ふる
			いを全通すること。
酢酸苦土肥料	水溶性苦土 18.0		
炭酸苦土肥料	く溶性苦土 30.0		
加工苦土肥料(蛇紋岩その他	一 く溶性苦土 23.0	く溶性苦土の含有率	2ミリメートルの網ふる
の塩基性マグネシウム含有物	水溶性苦土 3.0	1.0%につき	いを全通し、600マイク
に硫酸を加えたものをい	二 く溶性苦土及び水	ひ素 0.004	ロメートルの網ふるい
う。)	溶性苦土のほか可溶		を60%以上通過するこ
	性石灰、く溶性石		と。
	灰、水溶性石灰又は		
	可溶性硫黄を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カュ		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
	可溶性硫黄について		
	は 1.0		
腐植酸苦土肥料(石炭又は亜	く溶性苦土 3.0	く溶性苦土の含有率	3.5%の塩酸に溶けない
炭を硝酸で分解し、塩基性の	水溶性苦土 1.0	1.0%につき	もののうち、1%の水
マグネシウム含有物を加えた		亜硝酸 0.04	酸化ナトリウム液に溶
ものをいう。)			けるものが当該肥料に
			40%以上含有されるこ
	<u> </u>	I	<u> </u>

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
			と。
リグニン苦土肥料(亜硫酸パ	水溶性苦土 5.0	水溶性苦土の含有率	硫酸塩に由来する苦土
ルプ廃液中のリグニンスルホ		1.0%につき	は、1.0%以下であるこ
ン酸に硫酸マグネシウムを加		ひ素 0.004	と。
えたものをいう。)		亜硫酸 0.01	

# (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
小量 (%)	成分の最大量(%)	この個の個体事業
一 水溶性苦土 8.0	水溶性苦土の含有率	一 苦土の初期溶出率
二 水溶性苦土のほか	1.0%につき	は50%以下であるこ
水溶性石灰、水溶性	ひ素 0.004	と。
マンガン、水溶性ほ		二 と畜場の排水処理
う素又は可溶性硫黄		施設から生じた汚泥
を保証するものにあ		を使用する場合にあ
つては、一に掲げる		つては、管理措置が
もののほか		行われたものである
水溶性石灰について		こと。
は 1.0		三 要植害確認原料を
水溶性マンガンにつ		使用する肥料を原料
いては 0.10		として使用する肥料
水溶性ほう素につい		にあつては、要植害
ては 0.05		確認原料が法第七条
可溶性硫黄について		ただし書の規定に基
は 1.0		づき植害試験の調査
		を受け害が認められ
		ないものであるこ
		と。
		四 登録の有効期間
		は、三年肥料等を原
		料として使用する肥
		料にあつては三年、
		三年肥料等を原料と
		して使用しない肥料
		にあつては六年であ
	含有すべき主成分の最小量(%)8.0一 水溶性苦土 8.0名 水溶性苦土のほか水溶性石灰、水溶性石灰、水溶性硫黄を保証するものに掲げるもののほか水溶性石灰については、1.0水溶性マンガンについては、が容性マンガンについては、1.0水溶性ほう素については、1.0水溶性ほう素については、1.0水溶性ほう素については、1.0水溶性ほう素については、1.0水溶性ほう素について	含有すべき主成分の最含有を許される有害 成分の最大量(%)一 水溶性苦土 8.0水溶性苦土の含有率 1.0%につき

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
			る。
混合苦土肥料(副産肥料(専	主成分別表第一のとお	一 窒素を保証し、	一 窒素全量を保証す
ら原料規格第二中十一の項に	り。ただし、同表の記	りん酸又は加里を	る肥料は、アンモニ
掲げる原料を使用した肥料で	載にかかわらず、可溶	保証しないものに	ア性窒素又は硝酸性
あつて、苦土を保証したもの	性苦土、く溶性苦土又	あつては、窒素全	窒素以外の成分形態
に限る。)又は苦土質肥料に	は水溶性苦土について	量、アンモニア性	の窒素を含有するも
有機質肥料、副産肥料等、石	1.0	窒素、硝酸性窒素	の並びにアンモニア
灰質肥料、けい酸質肥料、苦		又はアンモニア性	性窒素及び硝酸性窒
土質肥料、マンガン質肥料、		窒素及び硝酸性窒	素を含有するもので
ほう素質肥料又は微量要素複		素の合計量のうち	あること。
合肥料を混合したものをい		最も大きいものの	二 りん酸全量又は加
う。)		含有率1.0%につき	里全量を保証する肥
		有害成分別表第一	料は、動植物質の原
		のとおり	料を使用したもので
		二 りん酸又は加里	あること。
		のいずれか一を保	三 く溶性りん酸を含
		証し、窒素を保証	有する肥料及び可溶
		しないものにあつ	性りん酸を含有する
		ては、保証する主	肥料を原料として使
		成分のうち最も大	用する肥料にあつて
		きい主成分の量の	は、く溶性りん酸又
		合計量の含有率	は可溶性りん酸のい
		1.0%につき	ずれか一を保証する
		有害成分別表第二	ものであること。
		のとおり	四 アルカリ分を含有
		三 窒素、りん酸又	する肥料及び石灰を
		は加里のうち、い	含有する肥料を原料
		ずれか二以上を保	として使用する肥料
		証するものにあつ	にあつては、アルカ
		ては、窒素、りん	リ分又は石灰のいず
		酸又は加里のそれ	れか一を保証するも
		ぞれの最も大きい	のであること。
		主成分の量の合計	五 可溶性マンガンを
		量の含有率1.0%に	保証する肥料は、原
		つき	料として可溶性マン
		有害成分別表第二	ガンを保証する肥料

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
)L 49 V) 1 <u>E</u> <del>X</del> Q	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての同の同時代事が
		のとおり	を使用したものであ
		四 窒素、りん酸及	ること。
		び加里を保証しな	六 と畜場の排水処理
		いものにあつて	施設から生じた汚泥
		は、苦土の最も大	を使用する場合にあ
		きい主成分の量の	つては、管理措置が
		含有率1.0%につき	行われたものである
		有害成分別表第一	こと。
		のとおり	七 要植害確認原料を
			使用する肥料を原料
			として使用する肥料
			にあつては、要植害
			確認原料が法第七条
			ただし書の規定に基
			づき植害試験の調査
			を受け害が認められ
			ないものであるこ
			と。
			八登録の有効期間
			は、三年肥料等を原
			料として使用する肥
			料にあつては三年、
			三年肥料等を原料と
			して使用しない肥料
			にあつては六年であ
			る。

### 十 マンガン質肥料

# (1) 登録の有効期間が六年であるもの

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量 (%)	含有を許される有害 成分の最大量 (%)	その他の制限事項
硫酸マンガン肥料	一 水溶性マンガン	水溶性マンガンの含	
	10.0	有率1.0%につき	
	二 水溶性マンガンの	ひ素 0.004	
	ほか可溶性硫黄を保		
	証するものにあつて		

	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	フの他の制門東西
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
	は		
	可溶性硫黄 1.0		
炭酸マンガン肥料(菱マンガ	可溶性マンガン 30.0	可溶性マンガンの含	1.7ミリメートルの網ふ
ン鉱をいう。)	く溶性マンガン 10.0	有率1.0%につき	るいを全通し、150マイ
		ひ素 0.004	クロメートルの網ふる
			いを80%以上通過する
			こと。
加工マンガン肥料(マンガン	一 水溶性マンガン	水溶性マンガンの含	
含有物にマグネシウム含有物	2.0	有率1.0%につき	
を混合し、硫酸を加えたもの	水溶性苦土 12.0	ひ素 0.004	
をいう。)	二 水溶性マンガン及		
	び水溶性苦土のほか		
	可溶性石灰、く溶性		
	石灰、水溶性石灰又		
	は可溶性硫黄を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
	可溶性硫黄について		
	は 1.0		
鉱さいマンガン肥料(フェロ	く溶性マンガン 10.0	く溶性マンガンの含	1.7ミリメートルの網ふ
マンガン鉱さい又はシリコマ		有率1.0%につき	るいを全通し、600マイ
ンガン鉱さいをいう。)		ニッケル 0.01	クロメートルの網ふる
		クロム 0.1	いを85%以上通過する
		チタン 0.04	こと。

# (2) 登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥 料 の 種 類	含有すべき主成分の最 小量 (%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
混合マンガン肥料(副産肥料	主成分別表第一のとお	一 窒素を保証し、	一 窒素全量を保証する

肥料の種類	含有すべき主成分の最   小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
(専ら原料規格第二中十二の	り。	りん酸又は加里を	肥料は、アンモニア性
   項に掲げる原料を使用した肥	ただし、同表の記載に	保証しないものに	室素又は硝酸性窒素以
料であつて、マンガンを保証	かかわらず、可溶性マ	あつては、窒素全	外の成分形態の窒素を
   したものに限る。) 又はマン	   ンガン、く溶性マンガ	量、アンモニア性	   含有するもの並びにア
  ガン質肥料に有機質肥料、副	   ン又は水溶性マンガン	窒素、硝酸性窒素	ンモニア性窒素及び硝
産肥料等、石灰質肥料、けい	のいずれか一について	又はアンモニア性	酸性窒素を含有するも
酸質肥料、苦土質肥料、マン	0.10	窒素及び硝酸性窒	のであること。
ガン質肥料、ほう素質肥料又		素の合計量のうち	二りん酸全量又は加里
は微量要素複合肥料を混合し		最も大きいものの	全量を保証する肥料
たものをいう。)		含有率1.0%につき	は、動植物質の原料を
70002000		有害成分別表第一	使用したものであるこ
		のとおり	ک، کا
		二りん酸又は加里	こ。   三 く溶性りん酸を含有
		のいずれか一を保	一ない。
		証し、窒素を保証	ん酸を含有する肥料を
		しないものにあつ	原料として使用する肥
		ては、保証する主	料にあつては、く溶性
		成分のうち最も大	りん酸又は可溶性りん
		きい主成分の量の	酸のいずれか一を保証
		合計量の含有率	するものであること。
		1.0%につき	四アルカリ分を含有す
			四
		有害成分別表第二	
		のとおり	する肥料を原料として
		三窒素、りん酸又	使用する肥料にあつて
		は加里のうち、い	は、アルカリ分又は石
		ずれか二以上を保	灰のいずれか一を保証
		証するものにあつ	するものであること。
		ては、窒素、りん	五 可溶性マンガンを保
		酸又は加里のそれ	証する肥料は、可溶性
		ぞれの最も大きい	マンガンを保証する肥
		主成分の量の合計	料を原料として使用し
		量の含有率1.0%に	たものであること。
		つき	六 と畜場の排水処理施
		有害成分別表第二	設から生じた汚泥を使
		のとおり	用する場合にあつて
		四 窒素、りん酸及	は、管理措置が行われ

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ル 11 */ 1星 規	小量 (%)	成分の最大量(%)	こ。2個2月間以中、資
		び加里を保証しな	たものであること。
		いものにあつて	七 要植害確認原料を使
		は、マンガンの最	用する肥料を原料とし
		も大きい主成分の	て使用する肥料にあつ
		量の含有率1.0%に	ては、要植害確認原料
		つき	が法第七条ただし書の
		有害成分別表第一	規定に基づき植害試験
		のとおり	の調査を受け害が認め
			られないものであるこ
			と。
			八 登録の有効期間は、
			三年肥料等を原料とし
			て使用する肥料にあつ
			ては三年、三年肥料等
			を原料として使用しな
			い肥料にあつては六年
			である。

### 十一 ほう素質肥料

# 登録の有効期間が六年であるもの

		1	
   肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
ル 4分 4分 1里 規	小量 (%)	成分の最大量(%)	ての他の間段事項
ほう酸塩肥料	一 く溶性ほう素及び		く溶性ほう素を保証す
	水溶性ほう素を保証		るものにあつては、850
	するものにあつては		マイクロメートルの網
	く溶性ほう素 35.0		ふるいを全通するこ
	水溶性ほう素 5.0		と。
	二 水溶性ほう素を保		
	証するものにあつて		
	は		
	水溶性ほう素 25.0		
ほう酸肥料	水溶性ほう素 54.0		
熔成ほう素肥料(ほう酸塩及	く溶性ほう素 15.0		1.7ミリメートルの網ふ
び炭酸マグネシウムその他の	く溶性苦土 10.0		るいを全通し、600マイ
塩基性マグネシウム含有物に			クロメートルの網ふる
長石等を混合し、熔融したも			いを80%以上通過する

肥料の種類	含有すべき主成分の最 小量(%)	含有を許される有害 成分の最大量(%)	その他の制限事項
のをいう。)			こと。
加工ほう素肥料(ほう素含有	一 水溶性ほう素 1.0	水溶性ほう素の含有	
物に蛇紋岩その他の塩基性マ	水溶性苦土 11.0	率1.0%につき	
グネシウム含有物を混合し、	二 水溶性ほう素及び	ひ素 0.04	
硫酸を加えたものをいう。)	水溶性苦土のほか可		
	溶性石灰、く溶性石		
	灰、水溶性石灰又は		
	可溶性硫黄を保証す		
	るものにあつては、		
	一に掲げるもののほ		
	カゝ		
	可溶性石灰について		
	は 1.0		
	く溶性石灰について		
	は 1.0		
	水溶性石灰について		
	は 1.0		
	可溶性硫黄について		
	は 1.0		

# 十二 微量要素複合肥料

### (1) 登録の有効期間が六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	その他の制限事項
肥料の種類 	小量 (%)	量(%) 成分の最大量(%)	
熔成微量要素複合肥料(マン	一 く溶性マンガン		1.7ミリメートルの網ふ
ガン、ほう素又はマグネシウ	10.0		るいを全通し、150マイ
ム含有物に長石等を混合し、	く溶性ほう素 5.0		クロメートルの網ふるい
熔融したものをいう。)	二 く溶性マンガン及		を50%以上通過するこ
	びく溶性ほう素のほ		と。
	かく溶性苦土を保証		
	するものにあつて		
	は、一に掲げるもの		
	のほか		
	く溶性苦土 5.0		

# (2)登録の有効期間が三年又は六年であるもの

肥料の種類	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	この他の制門東西
肥料の種類 	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項
混合微量要素肥料(副産肥料	主成分別表第一のとお	一 窒素を保証し、	一 窒素全量を保証す
(専ら原料規格第二中十一の	り。ただし、同表の記	りん酸又は加里を	る肥料は、アンモニ
項に掲げる原料を使用した肥	載にかかわらず、マン	保証しないものに	ア性窒素又は硝酸性
料であつて、苦土を保証した	ガン及びほう素につい	あつては、窒素全	窒素以外の成分形態
もの又は専ら原料規格第二中	てそれぞれの最も大き	量、アンモニア性	の窒素を含有するも
十二の項に掲げる原料を使用	い主成分の量の合計量	窒素、硝酸性窒素	の並びにアンモニア
した肥料であつて、マンガン	0.15	又はアンモニア性	性窒素及び硝酸性窒
を保証したものに限る。)、		窒素及び硝酸性窒	素を含有するもので
苦土質肥料、マンガン質肥		素の合計量のうち	あること。
料、ほう素質肥料又は微量要		最も大きいものの	二 りん酸全量又は加
素複合肥料に有機質肥料、副		含有率1.0%につき	里全量を保証する肥
産肥料等、石灰質肥料、けい		有害成分別表第一	料は、原料として動
酸質肥料、苦土質肥料、マン		のとおり	植物質のものを使用
ガン質肥料、ほう素質肥料又		二 りん酸又は加里	したものであるこ
は微量要素複合肥料を混合し		のいずれか一を保	と。
たものをいう。)		証し、窒素を保証	三 く溶性りん酸を含
		しないものにあつ	有する肥料及び可溶
		ては、保証する主	性りん酸を含有する
		成分のうち最も大	肥料を原料として使
		きい主成分の量の	用する肥料にあつて
		合計量の含有率	は、く溶性りん酸又
		1.0%につき	は可溶性りん酸のい
		有害成分別表第二	ずれか一を保証する
		のとおり	ものであること。
		三 窒素、りん酸又	四 アルカリ分を含有
		は加里のうち、い	する肥料及び石灰を
		ずれか二以上を保	含有する肥料を原料
		証するものにあつ	として使用する肥料
		ては、窒素、りん	にあつては、アルカ
		酸又は加里のそれ	リ分又は石灰のいず
		ぞれの最も大きい	れか一を保証するも
		主成分の量の合計	のであること。
		量の含有率1.0%に	五 可溶性マンガンを
		つき	保証する肥料は、可
		有害成分別表第二	溶性マンガンを保証

no dol - est des	含有すべき主成分の最	含有を許される有害	7 0 4 0 4 17日末石	
肥料の種類	小量 (%)	成分の最大量(%)	その他の制限事項	
		のとおり	する肥料を原料とし	
		四 窒素、りん酸及	て使用したものであ	
		び加里を保証しな	ること。	
		いものにあつて	六 と畜場の排水処理	
		は、マンガン及び	施設から生じた汚泥	
		ほう素のそれぞれ	を使用する場合にあ	
		の最も大きい主成	つては、管理措置が	
		分の量の合計量の	行われたものである	
		含有率1.0%につき	こと。	
		有害成分別表第二	七 要植害確認原料を	
		のとおり	使用する肥料を原料	
			として使用する肥料	
			にあつては、要植害	
			確認原料が法第七条	
			ただし書の規定に基	
			づき植害試験の調査	
			を受け害が認められ	
			ないものであるこ	
			と。	
			八 登録の有効期間	
			は、三年肥料等を原	
			料として使用する肥	
			料にあつては三年、	
			三年肥料等を原料と	
			して使用しない肥料	
			にあつては六年であ	
			る。	

# 十三 汚泥肥料等

登録の有効期間が三年であるもの

肥料の種類	含有を許される有	・
/L 1/1 0/2 /E *A	成分の最大量(%)	
汚泥肥料(次に掲げる肥料をいう。	ひ素 0.0	005 - 植害試験の調査を受けてい
一 専ら原料規格第三中一の項から三の項まで	カドミウム 0.00	005 ない汚泥を原料とする肥料に
に掲げる原料を使用したもの	水銀 0.00	002 あつては、植害試験の調査を
二 原料規格第三中一の項から三の項までに掲	ニッケル 0.	03 受け害が認められないもので

肥料の種類	含有を許され成分の最大量		その他の制限事項
げる原料に動植物質の原料を混合したもの又はこれを乾燥したもの 三 原料規格第三中一の項から三の項までに掲げる原料又は当該原料に動植物質の原料若しくは原料規格第三中四の項に掲げる原料を混合したものを堆積又は撹拌し、腐熟させたもの 四 専ら原料規格第三中四の項に掲げる原料を使用したもの) 水産副産物発酵肥料(原料規格第三中五の項に掲げる原料に植物質又は動物質の原料を混合したものを堆積又は撹拌し、腐熟させたものをいう。)	成分 の	0. 005 0. 005 0. 0005 0. 0005 0. 0002	あると。 二 との 排水処理施設からに おいまで でのの おいまで でのの おいまで できる はい との できる と で で のの
硫黄及びその化合物 (専ら原料規格第三中六の 項に掲げる原料を使用したものをいう。)	ひ素	0.005	たものであること。  三 牛等の部位を原料とする場合にあつては、脊柱等が混合しないものとして農林水産大臣の確認を受けた工程において製造されたものであること。  植害試験の調査を受けていない硫黄含有物を原料とする肥料にあつては、植害試験の調査を受けまる肥料にあつては、植き試験の調査を受けまが認められないものであること。

### 十四 農薬その他の物が混入される肥料

	ての一回のかがお比りてですののかに行			
肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	混入が許される 農薬その他の物	含有すべき 主成分の最	混入上の
		の最大量又は最	小量(%)	制限事項
		小量 (%)	の特例	
化成肥料	0, 0-ジエチル-0-(3-オキソ-2-フェニル-2H-	1.0以下		
	ピリダジン-6-イル)ホスホロチオエート			
	【ピリダフェンチオン】			
	2, 2, 3, 3-テトラフルオルプロピオン酸ナト	4.0以下		
	リウム			
	【テトラピオン】			
	1, 3-ビス(カルバモイルチオ)-2-(N,Nジメチ	1.0以下		
	ルアミノ)プロパン塩酸塩			
	【カルタップ】			
	ジイソプロピル-1, 3-ジチオラン-2-イリデン	5.0以下		
	マロネート			
	【イソプロチオラン】			
	(E) -(S)-1-(4-クロロフェニル)-4, 4-ジメチ	0.025以下		
	ル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル)ペン			
	タ-1-エン-3-オール			
	【ウニコナゾールP】			
	N-(4-クロロフェニル)-1-シクロヘキセン-1,	1.0以下		
	2-ジカルボキシミド			
	【クロルフタリム】			
	1, 2, 5, 6-テトラヒドロピロロ〔3, 2, 1-	2.0以下		
	ij] キノリン-4-オン			
	【ピロキロン】			
	(2RS, 3RS)-1-(4-クロロフェニル)-4, 4-ジメ	0.20以下		
	チル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾ-ル-1-イル)ペ			
	ンタン-3-オール			
	【パクロブトラゾール】			
	5-ジプロピルアミノ-α, α, α-トリフルオ	0.50以下		
	ロ-4, 6-ジニトロ-0-トルイジン			
	【プロジアミン】			

肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	混入が許される 農薬その他の物 の最大量又は最 小量(%)	主成分の最	混入上の 制限事項
	エチル=N-〔2, 3-ジヒドロ-2, 2-ジメチルベ	0.80以下		
	ンゾフラン-7-イルオキシカルボニル(メチル)			
	アミノチオ〕-N-イソプロピル-β-アラニナー			
	F			
	【ベンフラカルブ】			
	S, S'-ジメチル=2-ジフルオロメチル-4-イソ	0.30以下		
	ブチル-6-トリフルオロメチルピリジン-3, 5-			
	ジカルボチオアート			
	【ジチオピル】			
	N-(4-クロロフェニル)-1-シクロヘキセン-1,	0.50以下		
	2-ジカルボキシミド			
	【クロルフタリム】			
	及び			
	3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレンウラシ	0.50以下		
	ル			
	【レナシル】			
	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイ	0.50以下		
	ミダゾリジン-2-イリデンアミン			
	【イミダクロプリド】			
	3-アリルオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-	0.80以下		
	1, 1-ジオキシド			
	【プロベナゾール】			
	(E)-N-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N'-シ	1.0以下		
	アノ-N-メチルアセトアミジン			
	【アセタミプリド】			
化成肥料	1- (6-クロロ-3-ピリジルメチル) -N-ニトロ	0.07以下		
	イミダゾリジン-2-イリデンアミン			
	【イミダクロプリド】			
	及び			
	3-アリルオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-	0.80以下		
	1, 1-ジオキシド			
	【プロベナゾール】			

		油コンチントフ	<u> </u>	
		混入が許される		)HILD
肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	農薬その他の物		混入上の
		の最大量又は最		制限事項
		小量 (%)	の特例	
	N-(1-エチルプロピル)-3, 4-ジメチル-2, 6-	2.20以下		
	ジニトロアニリン			
	【ペンディメタリン】			
	2, 6-ジクロロベンゾニトリル	1.5以下		
	[DBN]			
	2-(4-クロロ-6-エチルアミノ-1, 3, 5-トリア	3.0以下		
	ジン-2-イルアミノ)-2-メチルプロピオノニト			
	リル			
	【シアナジン】			
	及び	1.5以下		
	2, 6-ジクロロベンゾニトリル			
	[DBN]			
	(RS)-N- [2-(3, 5-ジメチルフェノキシ)-1-メ	0.30以下		
	チルエチル〕-6-(1-フルオロ-1-メチルエチ			
	ル)-1, 3, 5-トリアジン-2, 4-ジアミン			
	【トリアジフラム】			
	及び	1.5以下		
	2, 6-ジクロロベンゾニトリル			
	[DBN]			
	(E)-1-(2-クロロ-1, 3-チアゾール-5-イルメチ	0.076以下		
	ル)-3-メチル-2-ニトログアニジン			
	【クロチアニジン】			
	(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-	0.23以下		
	フリルメチル)グアニジン			
	【ジノテフラン】			
	(R)-2-(4-クロロ-o-トリルオキシ)プロピオン	3.0以下		
	   酸カリウム			
	【メコプロップPカリウム塩】			
		3.0以下		
	2,6-ジクロロベンゾニトリル			
	[DBN]			
配合肥料	1, 2, 5, 6-テトラヒドロピロロ〔3, 2, 1-	1.0以下		
	i,j] キノリン-4-オン			
	【ピロキロン】			
	<u> </u>			

肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	混入が許される 農薬その他の物 の最大量又は最 小量(%)	含有すべき 主成分の最 小量 (%) の特例	混入上の制限事項
	エチル=N-〔2, 3-ジヒドロ-2, 2-ジメチルベ ンゾフラン-7-イルオキシカルボニル(メチル)	0.50以下		
	アミノチオ〕-N-イソプロピル-β-アラニナー ト			
	「   【ベンフラカルブ】			
	(E)-(S)-1-(4-クロロフェニル)-4, 4-ジメチ	0.025以下		
	ル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル)ペン			
	タ-1-エン-3-オール			
	【ウニコナゾールP】			
	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイ	0.50以下		
	ミダゾリジン-2-イリデンアミン			
	【イミダクロプリド】			
 配合肥料	0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)セ	2. 0以下		
	コンダリーブチルホスホロアミドチオエート			
	【ブタミホス】			
	及び			
	2, 6-ジクロロチオベンザミド	1.0以下		
	[DCBN]			
	N-(1-エチルプロピル)-3, 4-ジメチル-2, 6-	2. 20以下		
	ジニトロアニリン			
	【ペンディメタリン】			
	3-アリルオキシ-1, 2-ベンゾイソチアゾール- 1, 1-ジオキシド 【プロベナゾール】	0.80以下		
	1- (6-クロロ-3-ピリジルメチル) -N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン【イミダクロプリド】	0.07以下		
	及び 3-アリルオキシ-1, 2-ベンゾイソチアゾール- 1, 1-ジオキシド 【プロベナゾール】	0.80以下		

肥料の種類 被覆複合肥 料	混入が許される農薬その他の物の種類 (E)-(S)-1-(4-クロロフェニル)-4, 4-ジメチル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル)ペンタ-1-エン-3-オール 【ウニコナゾールP】	混入が許される 農薬その他の物 の最大量又は最 小量(%) 0.05以下	混入上の 制限事項
液状肥料	3-ヒドロキシ-5-メチルイソオキサゾール 【ヒドロキシイソキサゾール】	17.5以下	
家庭園芸用複合肥料	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン【イミダクロプリド】	2.50以下	
	<ul><li>(E)-N- [(6-クロロ-3-ピリジン)メチル]-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン【アセタミプリド】</li><li>及び</li></ul>	0.07以下	
	N-ベンジル-N, N-ジエチル-N-(2, 6-キシリルカルバモイル)メチルアンモニウム塩【安息香酸デナトニウム】		
	3-(2-クロロ-1, 3-チアゾール-5-イルメチル)- 5-メチル-1, 3, 5-オキサジアジナン-4-イリデン(ニトロ)アミン 【チアメトキサム】	2.0以下	
	及び N-ベンジル-N, N-ジエチル-N-(2, 6-キシリルカルバモイル)メチルアンモニウム塩 【安息香酸デナトニウム】	0.01以下	
	(RS)-アルファ-シアノ-3-フェノキシベンジル =2, 2, 3, 3-テトラメチルシクロプロパンカルボ キシラート 【フェンプロパトリン】	0.02以下	
	及び 2-p-クロロフェニル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イルメチル)ヘキサンニトリル 【ミクロブタニル】	0.005以下	

	カコンデナレフ 曲苺 フの小の粉の紙客	混入が許される	含有すべき	
明心み呑物		農薬その他の物	主成分の最	混入上の
肥料の種類	混入が許される農薬その他の物の種類	の最大量又は最	小量 (%)	制限事項
		小量 (%)	の特例	
	(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-	2.875以下		
	フリルメチル) グアニジン			
	【ジノテフラン】			
家庭園芸用	N'-メトキシカルボニルスルファニルアミドナ	0.15以下		
複合肥料	トリウム			
	【アシュラム】			
	及び	0.30以下		
	α-(2-メチル-4-クロロフェノキシ) プロピオ			
	ン酸カリウム			
	[MCPP]			

附一 この告示に掲げる肥料には、規則第四条第四号に掲げる材料を使用したものを含む。

二 この告示に掲げる主成分、有害成分その他の成分及び物理的・化学的性質等の分析に当たっては、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法によるものとする。ただし、次の表の第一欄に掲げる主成分の量の算出は、同表の第二欄に掲げるものによることとし、二の表のうち菌体りん酸肥料の欄及び五の表のうち菌体肥料の欄並びに十三の表に掲げる有害成分の量は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが定める肥料等試験法により分析した乾物の重量に対する百分率とする。

第 一 欄	第 二 欄
りん酸全量	五酸化リン (P2O5)
く溶性りん酸	
可溶性りん酸	
水溶性りん酸	
加里全量	酸化カリウム (K <sub>2</sub> O)
く溶性加里	
水溶性加里	
アルカリ分	酸化カルシウム(CaO)及び酸化マグネシウム
	(M g O)
可溶性石灰	酸化カルシウム (СаО)
く溶性石灰	
水溶性石灰	

第 一 欄	第 二 欄
可溶性けい酸	二酸化ケイ素 (S i O 2)
水溶性けい酸	
可溶性苦土	酸化マグネシウム (MgO)
く溶性苦土	
水溶性苦土	
可溶性マンガン	酸化マンガン (MnO)
く溶性マンガン	
水溶性マンガン	
く溶性ほう素	三酸化二ホウ素(B2O3)
水溶性ほう素	
可溶性硫黄	硫黄 (S)

三 この告示に掲げる植害試験とは、肥料の品質の確保等に関する法律(昭和二十五年 法律第百二十七号。以下「法」という。)第七条ただし書(法第三十三条の二第六項 において準用する場合を含む。)の規定に基づく調査である。なお、肥料の品質の確 保等に関する法律第二条の二に基づき植物に対する害に関する栽培試験の成績を要す る肥料から除くものを指定する件(昭和五十九年三月十六日農林水産省告示第六百九 十七号)において指定されたものについては、当該調査を受けることを要しない。

#### 主成分別表第一

一 窒素全量を保証するものにあつては	
窒素全量	1.0
二 アンモニア性窒素を保証するものにあつては	
アンモニア性窒素	1.0
三 硝酸性窒素を保証するものにあつては	
硝酸性窒素	1.0
四 りん酸全量を保証するものにあつては	
りん酸全量	1.0
五 可溶性りん酸を保証するものにあつては	
可溶性りん酸	1.0
六 く溶性りん酸を保証するものにあつては	
く溶性りん酸	1.0
七 水溶性りん酸を保証するものにあつては	
水溶性りん酸	1.0
八 加里全量を保証するものにあつては	
加里全量	1.0
九 く溶性加里を保証するものにあつては	

大溶性加里         1.0           十 水溶性加里を保証するものにあつては 水溶性加里         1.0           十一 アルカリ分を保証するものにあつては アルカリ分         5.0           十二 可溶性石灰         1.0           十二 可溶性石灰         1.0           十三 く溶性石灰を保証するものにあつては く溶性石灰         1.0           十四 水溶性石灰を保証するものにあつては 水溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性けい酸         5.0           十七 可溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           十八 く溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性マンガンを保証するものにあつては く溶性マンガン         0.10           二十		
大溶性加里	く溶性加里	1.0
十一 アルカリ分を保証するものにあつては アルカリ分         5.0           十二 可溶性石灰を保証するものにあつては 可溶性石灰         1.0           十三 く溶性石灰を保証するものにあつては く溶性石灰         1.0           十四 水溶性石灰を保証するものにあつては 水溶性石灰         1.0           十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性けい酸         5.0           十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性がま土         1.0           十七 可溶性苦土を保証するものにあつては く溶性苦土         1.0           十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性マンガンを保証するものにあつては マ溶性マンガンを保証するものにあつては く溶性マンガン         0.10           二十一 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン         0.10           二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性ほう素         0.05           二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素         0.05           二十四 水溶性ほう素を保証するもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証	十 水溶性加里を保証するものにあつては	
アルカリ分         5.0           十二 可溶性石灰を保証するものにあつては 可溶性石灰         1.0           十三 く溶性石灰を保証するものにあつては く溶性石灰         1.0           十四 水溶性石灰を保証するものにあつては 水溶性石灰         1.0           十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性けい酸         5.0           十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           十八 く溶性苦土を保証するものにあつては く溶性苦土         1.0           十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては マ溶性マンガン         0.10           二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては 、溶性マンガン         0.10           二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 、水溶性マンガン         0.05           二十二 水溶性ほう素 二十四 水溶性ほう素         0.05           二十四 水溶性ほう素         0.05           二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	水溶性加里	1.0
十二 可溶性石灰を保証するものにあつては       1.0         十三 く溶性石灰を保証するものにあつては       1.0         十四 水溶性石灰を保証するものにあつては       1.0         十四 水溶性石灰を保証するものにあつては       1.0         十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては       5.0         十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては       2         イ溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十一 く溶性マンガン を保証するものにあつては       2         イ溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガン       0.05         二十二 水溶性ほう素を保証するものにあつては       2         イ溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては       2         水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証       5         これ 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証       5	十一 アルカリ分を保証するものにあつては	
<ul> <li>可溶性石灰</li> <li>十三 く溶性石灰を保証するものにあつては く溶性石灰</li> <li>十四 水溶性石灰を保証するものにあつては 水溶性石灰</li> <li>水溶性石灰</li> <li>十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性けい酸</li> <li>大溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性けい酸</li> <li>大溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性苦土</li> <li>1.0</li> <li>十七 可溶性苦土を保証するものにあつては く溶性苦土</li> <li>十八 く溶性苦土を保証するものにあつては く溶性苦土</li> <li>十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土</li> <li>十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土</li> <li>一十 可溶性マンガンを保証するものにあつては く溶性マンガン</li> <li>一十 く溶性マンガンを保証するものにあつては 、水溶性マンガン</li> <li>一十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン</li> <li>一十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン</li> <li>一十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン</li> <li>一十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性ほう素</li> <li>し、0.05</li> <li>二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素</li> <li>し、0.05</li> <li>二十四 水溶性ほう素を保証するもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか</li> </ul>	アルカリ分	5.0
十三 〈溶性石灰を保証するものにあつては 〈溶性石灰         1.0           十四 水溶性石灰を保証するものにあつては 水溶性の酸を保証するものにあつては 可溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性けい酸を保証するものにあつては 水溶性けい酸         5.0           十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては 可溶性苦土         1.0           十八 〈溶性苦土を保証するものにあつては 〈溶性苦土         1.0           十九 水溶性苦土を保証するものにあつては 水溶性苦土         1.0           二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては 可溶性マンガン         0.10           二十一 〈溶性マンガンを保証するものにあつては 〈溶性マンガン         0.10           二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては 水溶性マンガン         0.05           二十二 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素         0.05           二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素         0.05           二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	十二 可溶性石灰を保証するものにあつては	
く溶性石灰       1.0         十四 水溶性石灰を保証するものにあつては水溶性けい酸を保証するものにあつては可溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸を保証するものにあつては可溶性苦土       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土を保証するものにあつては、な溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       0.10         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.05         二十二 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	可溶性石灰	1.0
十四 水溶性石灰を保証するものにあつては水溶性けい酸を保証するものにあつては可溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸       5.0         十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.05         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	十三 く溶性石灰を保証するものにあつては	
水溶性石灰       1.0         十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては可溶性けい酸       5.0         十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつてはな溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつてはな溶性マンガンを保証するものにあつてはな溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつてはな溶性マンガンを保証するものにあつてはな水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性なり素を保証するものにあつてはなな溶性ほう素を保証するものにあつてはな水溶性ほう素を保証するものにあつてはなか溶性硫黄を保証水溶性は分素でに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、水溶性のよっては、水溶性に分素でに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか	く溶性石灰	1.0
十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては可溶性けい酸       5.0         十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.05         二十三 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、小から二十四までに掲げるもののほか       0.05	十四 水溶性石灰を保証するものにあつては	
<ul> <li>可溶性けい酸</li> <li>大溶性けい酸</li> <li>大溶性けい酸</li> <li>大溶性苦土を保証するものにあつては</li> <li>可溶性苦土</li> <li>十八 く溶性苦土を保証するものにあつては</li> <li>く溶性苦土</li> <li>十九 水溶性苦土を保証するものにあつては</li> <li>水溶性苦土</li> <li>1.0</li> <li>十九 水溶性苦土を保証するものにあつては</li> <li>水溶性苦土</li> <li>二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては</li> <li>マ溶性マンガンを保証するものにあつては</li> <li>く溶性マンガン</li> <li>二十一 水溶性マンガンを保証するものにあつては</li> <li>水溶性マンガン</li> <li>二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては</li> <li>水溶性マンガン</li> <li>二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては</li> <li>水溶性マンガン</li> <li>二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては</li> <li>水溶性ほう素</li> <li>この5</li> <li>二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては</li> <li>水溶性ほう素</li> <li>この5</li> <li>二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか</li> </ul>	水溶性石灰	1.0
十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては水溶性けい酸       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.05         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか       0.05	十五 可溶性けい酸を保証するものにあつては	
水溶性けい酸       5.0         十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては可溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.05         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性であります。	可溶性けい酸	5.0
十七 可溶性苦土を保証するものにあつては可溶性苦土       1.0         十八 く溶性苦土を保証するものにあつては、溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては、水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては、可溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては、な溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては、水溶性マンガン       0.05         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十五 小から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	十六 水溶性けい酸を保証するものにあつては	
可溶性苦土       1.0         +八 く溶性苦土を保証するものにあつてはく溶性苦土       1.0         +九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつてはで溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素で保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素でに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	水溶性けい酸	5.0
十八 〈溶性苦土を保証するものにあつては       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては       1.0         木溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十一 〈溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十三 〈溶性ほう素を保証するものにあつては       0.05         二十四 水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証       するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	十七 可溶性苦土を保証するものにあつては	
く溶性苦土       1.0         十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては可溶性マンガンを保証するものにあつては、な溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	可溶性苦土	1.0
十九 水溶性苦土を保証するものにあつては水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては可溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつてはく溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素のにあっては水溶性ほう素を保証するものにあっては水溶性ほう素のにあっては水溶性ほう素のにあっては水溶性ほう素のにあっては水溶性ほう素のにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可容性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか	十八 く溶性苦土を保証するものにあつては	
水溶性苦土       1.0         二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては可溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつてはく溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素を保証するものにあつては、水溶性ほう素のにあつては、水溶性ほう素を保証するもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあっては、一から二十四までに掲げるもののほか	く溶性苦土	1.0
二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証       するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	十九 水溶性苦土を保証するものにあつては	
可溶性マンガン       0.10         二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつてはく溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか       0.05	水溶性苦土	1.0
二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつてはく溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	二十 可溶性マンガンを保証するものにあつては	
く溶性マンガン       0.10         二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	可溶性マンガン	0.10
二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	二十一 く溶性マンガンを保証するものにあつては	
水溶性マンガン       0.10         二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	く溶性マンガン	0.10
二十三       く溶性ほう素を保証するものにあつてはく溶性ほう素       0.05         二十四       水溶性ほう素を保証するものにあつては水溶性ほう素       0.05         二十五       一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	二十二 水溶性マンガンを保証するものにあつては	
く溶性ほう素       0.05         二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては       水溶性ほう素         ・水溶性ほう素       0.05         二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	水溶性マンガン	0.10
二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては 水溶性ほう素 0.05 二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	二十三 く溶性ほう素を保証するものにあつては	
水溶性ほう素 0.05 二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	く溶性ほう素	0.05
二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫黄を保証 するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	二十四 水溶性ほう素を保証するものにあつては	
するものにあつては、一から二十四までに掲げるもののほか	水溶性ほう素	0.05
	二十五 一から二十四までに掲げるもののほか可溶性硫	黄を保証
可溶性硫黄 1.0	するものにあつては、一から二十四までに掲げるもの	のほか
	可溶性硫黄	1.0

### 主成分別表第二

-	- 可溶性けい酸については	5. 0
_	こ 水溶性けい酸については	5. 0

三	可溶性苦土については	1.0
匹	く溶性苦土については	1.0
五.	水溶性苦土については	1.0
六	可溶性マンガンについては	0. 10
七	く溶性マンガンについては	0.10
八	水溶性マンガンについては	0. 10
九	く溶性ほう素については	0.05
十	水溶性ほう素については	0.05

#### 有害成分別表第一

硫青酸化物	0.01
ひ素	0.004
亜硝酸	0.04
ビウレット性窒素	0.02
スルファミン酸	0.01
カドミウム	0.00015
ニッケル	0.01
クロム	0.1
チタン	0.04
水銀	0.0001
鉛	0.006

#### 有害成分別表第二

硫青酸化物	0.005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003

#### 有害成分別表第三

一 六に該当するもの以外のものであつて、窒素、りん酸又は加里のいずれか一を保証するもの(窒素、りん酸又は加里のいずれか一のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証する

ものを含む。) について

1 窒素を保証し、りん酸及び加里を保証しないもの(けい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン 又はほう素を保証するものを含む。)にあつては、窒素全量、アンモニア性窒素、硝酸性窒素又はア ンモニア性窒素及び硝酸性窒素の合計量のうち最も大きいものの含有率1.0%につき

硫青酸化物	0.01
ひ素	0.004
亜硝酸	0.04
ビウレット性窒素	0.02
スルファミン酸	0.01

2 りん酸を保証し、窒素及び加里を保証しないもの(りん酸のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)について

イ ロ及びハに掲げるもの以外のものにあつては、りん酸の最も大きい主成分の量の含有率1.0%に つき

ひ素0.004カドミウム0.00015

ロ 鉱さいを原料とするものにあつては、く溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ひ素0.004カドミウム0.00015ニッケル0.01クロム0.1

ハ 原料規格第二中六の項リ又はヌに掲げる原料を使用したものにあつては、く溶性りん酸、可溶性りん酸又は水溶性りん酸のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ひ素0.004カドミウム0.00015ニッケル0.01クロム0.1水銀0.0001鉛0.006

3 加里を保証し、窒素及びりん酸を保証しないもの(加里のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)について

イ ロに掲げるもの以外のものにあつては、加里の最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ひ素 0.004

ロ 原料規格第二中八の項ロに掲げる原料を使用したものにあつては、加里の最も大きい主成分の 量の含有率1.0%につき

ひ素0.004カドミウム0.00015ニッケル0.01

0. 1	クロム
0.04	チタン
0.0001	水銀
0.006	鉛

- 二 六に該当するもの以外のものであつて、窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上を保証するもの(窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)について
  - 1 2及び3に掲げるもの以外のものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率1.0%につき

硫青酸化物	0.005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075

2 原料規格第二中六の項リ又はヌに掲げる原料を使用したものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率1.0%につき

ひ素	0.002
カドミウム	0. 000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
水銀	0.00005
鉛	0.003

3 原料規格第二中八の項ロに掲げる原料を使用したものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率1.0%につき

ひ素	0. 002
カドミウム	0. 000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003

三 六に該当するもの以外のものであつて、けい酸を保証し、窒素、りん酸及び加里のいずれも保証しないもの(けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては、可溶性けい酸又は水溶性けい酸のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ニッケル 0.01

	クロム	0. 1
	チタン	0.04
最大限度量として		
	ニッケル	0.4
	クロム	4. 0
	チタン	1.5

- 四 六に該当するもの以外のものであつて、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん酸、 加里及びけい酸のいずれも保証しないもの(アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガン又 はほう素を保証するものを含む。)について
  - 1 アルカリ分を保証し、石灰を保証しないもの(アルカリ分のほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては、アルカリ分の含有率1.0%につき

ニッケル	0.01
クロム	0.1
チタン	0.04

最大限度量として

 ニッケル
 0.4

 クロム
 4.0

 チタン
 1.5

2 石灰を保証し、アルカリ分を保証しないもの(石灰のほか苦土、マンガン又はほう素を保証する ものを含む。)にあつては、可溶性石灰、く溶性石灰又は水溶性石灰のうち最も大きい主成分の量の 含有率1.0%につき

ニッケル	0.01
クロム	0.1
チタン	0.04

最大限度量として

 ニッケル
 0.4

 クロム
 4.0

 チタン
 1.5

- 五 六に該当するもの以外のものであつて、苦土、マンガン又はほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、 けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないものについて
  - 1 苦土を保証し、マンガンを保証しないもの(苦土のほかほう素を保証するものを含む。)にあつては、可溶性苦土、く溶性苦土又は水溶性苦土のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ニッケル	0.01
クロム	0.1
チタン	0.04

2 マンガンを保証し、ほう素を保証しないもの(マンガンのほか苦土を保証するものを含む。)にあ

つては、可溶性マンガン、く溶性マンガン又は水溶性マンガンのうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

ひ素	0.004
ニッケル	0.01
クロム	0. 1
チタン	0.04

3 ほう素を保証し、苦土及びマンガンを保証しないものにあつては

なし

4 マンガン及びほう素を保証するもの(マンガン及びほう素のほか苦土を保証するものを含む。)に あつては、マンガン及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率1.0%につき

ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02

- 六 肥料を原料として使用するもの、原料規格における複数の項の原料を使用するもの及び植害試験の調査を要する原料を使用するものについて
  - 1 窒素、りん酸又は加里のいずれか一を保証するもの(窒素、りん酸又は加里のいずれか一のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)、けい酸を保証し、窒素、りん酸及び加里のいずれも保証しないもの(けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)、アルカリ分又は石灰のいずれか一を保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの(アルカリ分又は石灰のいずれか一のほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)並びに苦土、マンガン又はほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないもの(苦土、マンガン及びほう素を保証するもの並びにマンガン及びほう素を保証するものを除く。)について
    - イ ロに掲げるもの以外のものにあつては、保証する窒素、りん酸又は加里(けい酸を保証し、窒素、りん酸、加里を保証しないもの(けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては保証するけい酸、アルカリ分又は石灰のいずれかーを保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの(アルカリ分又は石灰のいずれかーのほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては保証するアルカリ分又は石灰、苦土を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びマンガンのいずれも保証しないもの(苦土のほかほう素を保証するものを含む。)にあつては保証する苦土、マンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びほう素のいずれも保証しないもの(マンガンのほか苦土を保証するものを含む。)にあつては保証するマンガン、ほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰、苦土及びマンガンのいずれも保証しないものにあつては保証するほう素)のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

硫青酸化物 0.01

ひ素	0.004
亜硝酸	0.04
ビウレット性窒素	0.02
スルファミン酸	0.01
カドミウム	0.00015
ニッケル	0.01
クロム	0.1
チタン	0.04
水銀	0.0001
鉛	0.006

ロ 鉱さいを原料とするものにあつては、保証する窒素、りん酸又は加里(けい酸を保証し、窒素、りん酸、加里のいずれも保証しないもの(けい酸のほかアルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては保証するけい酸、アルカリ分又は石灰のいずれかーを保証し、窒素、りん酸、加里及びけい酸のいずれも保証しないもの(アルカリ分又は石灰のいずれかーのほか苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)にあつては保証するアルカリ分又は石灰、苦土を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びマンガンのいずれも保証しないもの(苦土のほかほう素を保証するものを含む。)にあつては保証する苦土、マンガンを保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰及びほう素のいずれも保証しないもの(マンガンのほか苦土を保証するものを含む。)にあつては保証するマンガン、ほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分、石灰、苦土及びマンガンのいずれも保証しないものにあつては保証するほう素)のうち最も大きい主成分の量の含有率1.0%につき

硫青酸化物	0.01
ひ素	0.004
亜硝酸	0.04
ビウレット性窒素	0.02
スルファミン酸	0.01
カドミウム	0.00015
ニッケル	0.01
クロム	0. 1
チタン	0.04
水銀	0.0001
鉛	0.006
最大限度量として	
ニッケル	0.4
クロム	4.0
チタン	1.5

2 窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上を保証するもの(窒素、りん酸又は加里のいずれか二以上のほかけい酸、アルカリ分、石灰、苦土、マンガン又はほう素を保証するものを含む。)についてイロに掲げるもの以外のものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の量の合計量の含有率1.0%につき

硫青酸化物	0.005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003

ロ 鉱さいを原料とするものにあつては、窒素、りん酸又は加里のそれぞれの最も大きい主成分の 量の合計量の含有率1.0%につき

硫青酸化物	0.005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003

最大限度量として

 ニッケル
 0.4

 クロム
 4.0

 チタン
 1.5

- 3 マンガン及びほう素を保証し、窒素、りん酸、加里、けい酸、アルカリ分及び石灰のいずれも保証しないもの(マンガン及びほう素のほか苦土を保証するものを含む。)について
  - イ ロに掲げるもの以外のものにあつては、マンガン及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の 量の合計量の含有率1.0%につき

硫青酸化物	0. 005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003
ロ 鉱さいを原料とするものにあつては、マンガン	<ul><li>及びほう素のそれぞれの最も大きい主成分の量</li></ul>
の合計量の含有率1.0%につき	
硫青酸化物	0.005
ひ素	0.002
亜硝酸	0.02
ビウレット性窒素	0.01
スルファミン酸	0.005
カドミウム	0.000075
ニッケル	0.005
クロム	0.05
チタン	0.02
水銀	0.00005
鉛	0.003
最大限度量として	
ニッケル	0.4
クロム	4. 0
チタン	1.5

# 原料規格第一

原料規格第一			
分類番号	原料の種類	原料の条件	
_	動物由来物質	イ 魚介類(口に掲げるものを除く。)	
		ロ 魚介類の臓器を収集したもの(発酵させたものを含む。)	
		ハ 繊維工業において副産された動物性繊維	
		ニ 食料品、飲料又は飼料の製造副産物(魚介類を除く。)	
		ホ にかわ製造業、ゼラチン製造業又はなめし革製造業(クロム	

		なめし革製造業を除く。) において副産されたゼラチン又はコラ
		ーゲン含有物
		へ イ、ハ、二又はホを発酵させたもの
<u> </u>	植物由来物質	イ 農産物の生産の過程で発生した残さ(植物質のものに限る。)
		若しくは海藻又はこれらに酵素を加えたもの
		ロ 食料品、飲料又は飼料の製造副産物
		ハー廃糖蜜
		ニ でんぷん製造副産物
		ホ イ、ロ、ハ又はニを発酵させたもの
三	菌体由来物質	イ 食料品、飲料又は飼料の製造における発酵副産物
		ロ 漢方薬又はペニシリンの製造における発酵副産物
		ハ 食料品用酵母の製造副産物
		ニ 発酵工業において副産されたエチルアルコール、くえん酸、
		乳酸等の製造における発酵副産物
		ホ 培養によつて得られる菌体を乾燥したもの
		へ 培養によつて得られる菌体から脂質又は核酸を抽出したかす
		を乾燥したもの

#### 備考

- 一 動植物質のものに限る。
- 二 粉砕、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行ったものを含む。
- 三 規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。
- 四 排水処理施設から生じた汚泥以外のものであること。

#### 原料規格第二

<b>が17が11カー</b>			
	原料規格第二		
分類番号	原料の種類	原料の条件	
_	水溶性窒素化合物含有	イ アミノ酸若しくは核酸又はこれらの塩(試薬又は工業用薬品	
	物(アンモニア、アン	として製造されたものに限る。)	
	モニウム塩、硝酸又は	ロ アラントイン (試薬又は工業用薬品として製造されたものに	
	硝酸塩以外の水溶性窒	限る。)	
	素化合物を含有するも	ハ オキサミド (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限	
	のをいう。)	る。)	
		ニ シアナミド (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限	
		る。)	
		ホ 食料品用酵素、人工甘味剤、食品添加物又は飼料添加物の製	
		造副産物	
		へ 石灰窒素 (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限	
		る。)	

		ト トリアゾン (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限
		る。)
		チ 尿素 (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限る。) 又
		はこれにホルムアルデヒドを加えたもの
		リ モノエタノールアミン (試薬又は工業用薬品として製造され
		たものに限る。)
		ヌ 硫酸グアニル尿素 (試薬又は工業用薬品として製造されたも
		のに限る。)
		ル EDTA又はその塩(試薬又は工業用薬品として製造された
		ものに限る。)
		ヲ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査
		を受け害が認められないもの
二	菌体含有物(発酵副産	イ 食料品、飲料又は飼料の製造における発酵副産物(硫酸、塩
	物又は培養によつて得	酸、アンモニア、塩化加里又は水酸化カリウムを加えたものを
	られる菌体を含有する	含む。)
	ものをいう。)	ロ 漢方薬又はペニシリンの製造における発酵副産物(硫酸、塩
		酸、アンモニア、塩化加里又は水酸化カリウムを加えたものを
		含む。)
		ハ 食料品用酵母の製造副産物(硫酸、塩酸、アンモニア、塩化
		加里又は水酸化カリウムを加えたものを含む。)
		ニ 発酵工業において副産されたエチルアルコール、くえん酸、
		乳酸等の製造における発酵副産物(硫酸、塩酸、アンモニア、
		塩化加里又は水酸化カリウムを加えたものを含む。)
		ホ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査
		を受け害が認められないもの
三	動植物由来物質含有物	イ キチン又はキトサン (試薬又は工業用薬品として製造された
	(動植物を含むもの、	ものに限る。)
	動植物に酸、アルカリ	ロ ゼラチン (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限
	等を添加したもの又は	る。)
	動植物中の化合物を抽	ハ 動植物質の原料に硫酸、塩酸、硝酸、りん酸、水酸化ナトリ
	出したものをいう。)	ウム、水酸化カリウム、炭酸カリウム、食用アルコール又は酵
		素を加えたもの
		ニ フィチン酸 (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限   - ス 、
		る。)
		ホ ベタイン (試薬又は工業用薬品として製造されたものに限
		る。)

		へ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
		のを除く。)において副産されたものであつて、植害試験の調査
m	マンエーマ会を悔 (マ	を受け害が認められないもの
四	アンモニア含有物(ア	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	ンモニア又はアンモニ	ロ 食料品用酵素、アミノ酸、人工甘味剤、食品添加物又は飼料
	ウム塩を含有するもの	添加物の製造工程から回収したアンモニア又は硫酸アンモニア
	をいう。)	含有物
		ハ 尿素の加熱分解により発生したアンモニアに硫酸を化学反応
		させることによつて得られる硫酸アンモニア含有物
		ニ 堆肥又は汚泥肥料の製造の過程で発生した排気中のアンモニ
		アに硫酸又はりん酸を化学反応させることによつて得られる硫
		酸アンモニア含有物又はりん酸アンモニア含有物
		ホ 別表第一に掲げる業(同表第十三号に掲げるものを除く。)に
		おいて副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認
		められないもの
五.	硝酸含有物(硝酸又は	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	硝酸塩を含有するもの	ロ 炭酸希土類又は酸化希土類の製造副産物(硝酸アンモニア含
	をいう。)	有物に限る。)
		ハ 別表第一に掲げる業(同表第十三号に掲げるものを除く。)に
		おいて副産されたものであつて、植害試験の調査を受け害が認
		められないもの
六	りん酸含有物(りん	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	酸、二りん酸、ポリり	ロ 次のいずれかのりん酸含有液に水酸化ナトリウムを加えるこ
	ん酸若しくは亜りん酸	とによつて得られるりん酸ナトリウム含有物
	又はこれらの塩を含有	(1) イノシトール製造液
	するものをいう。)	(2) 精製りん酸の抽出残液
		ハ 次のいずれかの方法によりりん酸アンモニウムを含有する粉
		末消火薬剤のはつ水コーティングを剥離させることによつて得
		られるりん酸アンモニウム含有物
		(1) 加圧、摩砕又は粉砕
		(2) アルコールとの混合及び当該アルコールの揮発
		(3) 尿素水溶液との混合
		ニ 製鋼鉱さい
		ホ 次のいずれかのりん酸含有液又は亜りん酸含有液に石灰を加
		えることによつて得られるりん酸カルシウム含有物又は亜りん
		酸カルシウム含有物
		(1) アルミ箔のエッチング処理に使用したりん酸液
		(2) アミノ酸製造における発酵副産液
<u> </u>	1	

- (3) イノシトール製造液
- (4) 液晶基盤の洗浄に使用したりん酸液
- (5) エタノールの製造に使用したりん酸液
- (6) オセイン製造廃液
- (7) 鋳造用りん鉄、りん銅又はりんニッケルの製造の過程で発生したりん酸を含有する排気の溶解液
- (8) ニッケルめつき廃液からニッケルを回収して生じた亜りん酸含有液
- (9) ビタミンB 1 製造液
- (10) 次亜りん酸ソーダ製造液
- へ りん鉱石又はこれに硫酸、硝酸、りん酸若しくはアンモニア を加えたもの
- ト 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設 又は食料品を製造する事業場において排水処理後の凝集沈殿、 膜分離等の固液分離により得られる分離液に塩化カルシウム又 は水酸化カルシウムを加え、析出させたりん酸含有物(種晶を 使用する場合にあつては、種晶に肥料原料となるものを使用し たものに限る。)
- チ 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設 又は食品を製造する事業場から生じた汚泥の燃焼灰に水酸化ナ トリウムを加え、固液分離して得られる分離液に塩化カルシウ ム又は水酸化カルシウムを加え、析出させたりん酸含有物
- リ 下水道の終末処理場、し尿処理施設、農業集落排水処理施設 若しくは食品を製造する事業場から生じた汚泥又は食品を製造 する事業場から生じた排水を消化処理して得られる消化液又は 脱水ろ液(しさを除去したものに限る。)に塩化マグネシウム、 水酸化マグネシウム又は硫酸マグネシウムを加え、析出させた りん酸含有物(消化液中で析出させる場合にあつては、析出後 に水洗したものに限る。)(種晶を使用する場合にあつては、種 晶に肥料原料となるものを使用したものに限る。)
- ヌ し尿処理施設において脱水ろ液(しさを除去したものに限る。)に塩化マグネシウム、水酸化マグネシウム又は硫酸マグネシウムを加え、析出させたりん酸含有物(析出後に水洗したものに限る。)(種晶を使用する場合にあつては、種晶に肥料原料となるものを使用したものに限る。)

		ル 別表第一に掲げる業(同表第十四号に掲げるものを除く。)に おける副産物又は下水道の終末処理場、し尿処理施設、集落排 水処理施設若しくは別表第一に掲げる業(同表第十四号に掲げ るものを除く。)の排水処理施設において回収されたりん酸含有 物であつて、植害試験の調査を受け害が認められないもの(汚 泥が除去されたものに限る。また、吸着原料を使用する場合に あつては、当該吸着原料の品質を確認したものに限る。)	
七	加里含有物(酸化カリ	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物	
	ウム、水酸化カリウム	ロ アルキルサリチル酸製造副産物 (硫酸カリウム含有物に限	
	又はカリウム塩を含有	る。)	
	するものをいう。)	ハ 海藻に水酸化カリウムを加えたもの	
		ニ てん菜又はさとうきびを原料とした糖製造副産物(硫酸カリ	
		ウム含有物に限る。)	
		ホ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも	
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査	
		を受け害が認められないもの	
八	動植物質燃焼灰	イ 次のいずれか一以上の燃焼灰	
		(1) 油やしの果房又は果実	
		(2) アルコール製造副産物(動植物質のものに限る。)	
		(3) 廃菌床培地 (動植物質のものに限る。)	
		(4) コーヒーかす	
		(5) コーンスターチ製造副産物(動植物質に限る。)	
		(6) 植物油かす類	
		(7) 鶏ふん	
		(8) 牛ふん	
		(9) 飼料 (動植物質のものに限る。)	
		ロ バイオマス (動植物に由来する有機物である資源 (原油、石	
		油ガス、可燃性天然ガス及び石炭を除く。)をいう。)のうち草	
		木に由来するものを専焼する設備で燃焼させて生じた燃焼灰で	
		あつて、加里含有物であるもの(塗料若しくは薬剤を含むもの	
		又はそのおそれがあるものを燃焼させて生じたものを除く。)	
		ハ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも	
		のを除く。)において副産されたもの(動植物質のものに限	
		る。)の燃焼灰であつて、植害試験の調査を受け害が認められな	
九	<b>)</b> <b>) ) ) ) ) ) ) ) ) )</b>	いもの イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物	
) L	けい酸含有物(けい酸 又はけい酸塩を含有す		
	文はりい酸塩を含有 9	ロ鉱さい	
	(a ものないり。)	ハ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも   のな除く ) にないて副帝されたよのでなって、梅宝試験の調本	
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査	

		を受け害が認められないもの
+	カルシウム含有物(酸	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	化カルシウム、水酸化	口 貝化石
	カルシウム又はカルシ	ハー貝殻
	ウム塩を含有するもの	ニ 鉱さい
	をいう。)	ホ 水酸化カルシウム又は炭酸カルシウムの製造副産物(酸化カ
		ルシウム、水酸化カルシウム又は炭酸カルシウム含有物に限
		る。)
		へ 石灰石
		ト 糖製造副産物(酸化カルシウム、水酸化カルシウム又は炭酸
		カルシウム含有物に限る。)
		チ ドロマイト鉱石
		リ 卵殻
		ヌ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査
		を受け害が認められないもの
+-	苦土含有物	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	(酸化マグネシウム、	口 海水
	水酸化マグネシウム又	ハ 海水を原料とした塩化マグネシウム製造副産物(水酸化マグ
	はマグネシウム塩を含	ネシウム含有物又は塩化マグネシウム含有物に限る。)
	有するものをいう。)	ニ 水酸化マグネシウム製造副産物(水酸化マグネシウム含有物
		に限る。)
		ホ ドロマイトれんが又はドロマイト鉱石
		へ フェロニッケル鉱さい
		ト ブルーサイト
		チ マグネシアクリンカー製造副産物(酸化マグネシウム含有物
		又は水酸化マグネシウム含有物に限る。)
		リ マグネシウムを含有する鉱物又は岩石を焼成したもの
		ヌ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
		のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査
		を受け害が認められないもの
十二	マンガン含有物(酸化	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物
	マンガン、水酸化マン	ロ フェロマンガン鉱さい又はシリコマンガン鉱さい
	ガン又はマンガン塩を	ハ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも
	含有するものをい	のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査
	う。)	を受け害が認められないもの
十三	ほう酸含有物	イ 試薬又は工業用薬品として製造された化合物

	(ほう酸又はほう酸塩	ロ 別表第一に掲げる業(同表第十三号及び第十四号に掲げるも	
	を含有するものをい	のを除く。) において副産されたものであつて、植害試験の調査	
	う。)	を受け害が認められないもの	
十四	肥料製造副産物	普通肥料(登録を受けたもの(法第四条第一項第三号から第五号	
		までに掲げるものを除く。)及び法第四条第二項第二号に掲げるも	
		の(法第十六条の二第一項の規定による届出に係るものに限る。)	
		に限り、異物を混入したものを除く。)の製造において生じたもの	
十五	食品等工場活性沈殿物	別表第三に掲げる業において副産された主産物製造廃水を活性ス	
		ラッジ法により浄化する際に得られる菌体を濃縮、消化、脱水又	
		は乾燥したもの	
十六	排水処理活性沈殿物	イ 次に掲げる原料のうち、品質管理計画に基づいて管理される	
		ものであつて、金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定め	
		る省令(昭和四十八年総理府令第五号。以下「判定基準省令」	
		という。) 別表第一の基準に係る調査を受け、基準に適合するこ	
		とが確認されたものであり、かつ、植害試験の調査を受けない	
		肥料に使用する場合にあつては、植害試験の調査を受け害が認	
		められないもの	
		(1) 下水道の終末処理場、し尿処理施設、集落排水処理施設、	
		浄化槽又は工場若しくは事業場の排水処理施設から生じた汚	
		泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの	
		(2) し尿に凝集を促進する材料、動物の排せつ物に凝集を促進	
		する材料若しくは悪臭を防止する材料を混合したもの又はこ	
		れを脱水若しくは乾燥したもの	
		ロ イに掲げる原料を焼成したもの又はイに掲げる原料に植物質	
		若しくは動物質の原料を加え焼成したもののうち、品質管理計	
		画に基づいて管理されるものであつて、植害試験の調査を受け	
		ない肥料に使用する場合にあつては、植害試験の調査を受け害	
		が認められないもの	

#### 備考

- 一 粉砕、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行つたものを含む。
- 二 規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。
- 三 中和又はpHを調整する目的で別表第二に掲げる原料を使用したものを含む。
- 四 排水処理施設から生じた汚泥(十五の項及び十六の項に掲げるものを除く。)以外のものであること。

### 原料規格第三

		原料規格第三	
分類	原料の種類	原料の条件	その他の制限事項
番号			Null-hatt Media A Dul-hatte on the May I at
_	下水汚泥	下水道の終末処理場から生じた汚泥を	一 判定基準省令別表第一の基準に係る調査を受け、基準に適合すること
		濃縮、消化、脱水又は乾燥したもの	が確認されたものであること。
$\vec{-}$	し尿汚泥	イ し尿処理施設から生じた汚泥を濃	二 植害試験の調査を受けない肥料に
		縮、消化、脱水又は乾燥したもの	使用する場合にあつては、植害試験
		ロ 集落排水処理施設から生じた汚泥	の調査を受け害が認められないもの
		を濃縮、消化、脱水又は乾燥したも	であること。
		Ø	
		ハ 浄化槽から生じた汚泥を濃縮、消	
		化、脱水又は乾燥したもの	
		ニ し尿に凝集を促進する材料若しく	
		は悪臭を防止する材料を混合したも	
		の又はこれを脱水若しくは乾燥した	
		もの	
		ホ動物の排せつ物に凝集を促進する	
		材料若しくは悪臭を防止する材料を 混合したもの又はこれを脱水若しく	
		は乾燥したもの	
三	工業汚泥	イ 工場の排水処理施設から生じた汚	
		泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥した	
		もの	
		ロ 事業場の排水処理施設から生じた	
		汚泥を濃縮、消化、脱水又は乾燥し	
		たもの	
四	焼成汚泥	イ 一の項、二の項又は三の項に掲げ	植害試験の調査を受けない肥料に使用
		る原料を焼成したもの	する場合にあつては、植害試験の調査
		ロ 一の項、二の項又は三の項に掲げ	を受け害が認められないものであるこ
		る原料に植物質又は動物質の原料を	と。
		加え焼成したもの	
五	水産副産物	魚介類の臓器	一 判定基準省令別表第一の基準に係
			る調査を受け、基準に適合すること
			が確認されたものであること。
			二 植害試験の調査を受けない肥料に
			使用する場合にあつては、植害試験
			の調査を受け害が認められないもの
			であること。

六	硫黄含有物	イ 試薬又は工業用薬品として製造さ	植害試験の調査を受けない肥料に使用
	(硫黄又はそ	れたもの	する場合にあつては、植害試験の調査
	の化合物を含	ロ 別表第一に掲げる業(同表第十三	を受け害が認められないものであるこ
	有するものを	号及び第十四号に掲げるものを除	と。
	いう。)	く。) において副産されたもの	

#### 備考

- 一 粉砕、濃縮、脱水、乾燥等の加工を行つたものを含む。
- 二 規則第四条第四号に掲げる材料又は水を使用したものを含む。

#### 別表第一

- 一 農業
- 二漁業
- 三 食料品製造業
- 四 飲料・たばこ・飼料製造業
- 五 化学工業
- 六 繊維工業
- 七 なめし革・同製品・毛皮製造業(なめし革製造業及び毛皮製造業に限る。)
- 八 鉱業、採石業、砂利採取業(金属鉱業を除く。)
- 九 パルプ・紙・紙加工品製造業 (パルプ製造業及び紙製造業に限る。)
- 十 窯業・土石製品製造業(ガラス・同製品製造業を除く。)
- 十一 鉄鋼業
- 十二 非鉄金属製造業
- 十三 電子部品・デバイス・電子回路製造業(りん酸回収工程を含むものに限る。)
- 十四 石炭・石油その他の燃料の燃焼ガスの脱硫処理又は脱硝処理を行う業

#### 別表第二

- 一 次に掲げる酸性の原料 硫酸、塩酸、硝酸、りん酸、くえん酸、酢酸、ぎ酸又はけい酸
- 二 次に掲げる塩基性の原料

アンモニア液又はアンモニアガス、けい酸ナトリウム、炭酸ナトリウム、酢酸ナトリウム、水酸化ナトリウム、炭酸カリウム、酸化カリウム、水酸化カリウム、炭酸カルシウム、酸化カルシウム、水酸化カルシウム、炭酸マグネシウム、酸化マグネシウム又は水酸化マグネシウム

#### 別表第三

- 一 食料品製造業
- 二 清涼飲料製造業
- 三 酒類製造業

- 四 茶・コーヒー製造業
- 五 配合飼料製造業又は単体飼料製造業
- 六 パルプ製造業
- 七 樹脂製造業 (パルプを原料として使用するものに限る。)
- 八 発酵工業
- 九 ゼラチン製造業(なめし皮革くずを原料として使用しないものに限る。)

附 則(平成25年12月5日農林水産省告示第2939号)

- 1 この告示は、平成二十六年一月四日から施行する。
- 2 この告示による改正後の昭和六十一年二月二十二日農林水産省告示第二百八十四号の四(1)の表肉骨粉の項に規定する確認は、この告示の施行前においてもこの告示による 改正後の同項の規定の例により行うことができる。

附 則(平成26年9月1日農林水産省告示第1146号)

- 1 この告示は、平成二十六年十月一日から施行する。
- 2 この告示による改正後の昭和六十一年二月二十二日農林水産省告示第二百八十四号の一の(2)の表副産窒素肥料の項、二の(2)の表液体りん酸肥料の項、熔成汚泥灰けい酸りん肥の項及び副産りん酸肥料の項、四の(1)の表肉かす粉末の項、蒸製てい角骨粉の項、乾血及びその粉末の項、生骨粉の項及び蒸製骨粉の項、四の(2)の表乾燥菌体肥料の項、副産動物質肥料の項及び混合有機質肥料の項、五の(1)の表熔成複合肥料の項、化成肥料の項及び配合肥料の項、五の(2)の表化成肥料の項、吸着複合肥料の項、副産複合肥料の項、液状複合肥料の項、配合肥料の項、熔成汚泥灰複合肥料の項及び家庭園芸用複合肥料の項並びに十二の表下水汚泥肥料の項、し尿汚泥肥料の項、工業汚泥肥料の項、混合汚泥肥料の項、汚泥発酵肥料の項及び水産副産物発酵肥料の項に規定する確認は、それぞれこの告示の施行前においてもこの告示による改正後のこれらの項の規定の例により行うことができる。

附 則(平成29年10月16日農林水産省告示第1549号) この告示は、平成二十九年十一月十五日から施行する。

附 則(平成30年1月22日農林水産省告示第134号) この告示は、平成三十年二月二十二日から施行する。

附 則(平成30年3月6日農林水産省告示第455号) この告示は、平成三十年四月五日から施行する。

附 則(平成31年4月26日農林水産省告示第807号)

この告示は、平成三十一年五月二十七日から施行する。

附 則(令和元年6月21日農林水産省告示第455号)

この告示は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日(令和元年七月一日)から施行する。

附 則(令和2年2月28日農林水産省告示第401号) この告示は、令和二年四月一日から施行する。

附 則(令和2年5月11日農林水産省告示第939号) この告示は、令和二年六月十一日から施行する。

附 則(令和2年10月30日農林水産省告示第2126号) この告示は、令和二年十二月一日から施行する。

附 則(令和3年6月14日農林水産省告示第1010号)

この告示は、肥料取締法の一部を改正する法律附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日(令和三年十二月一日)から施行する。

附 則(令和4年2月15日農林水産省告示第302号) この告示は、令和四年三月十七日から施行する。

附 則(令和5年9月1日農林水産省告示第1053号) この告示は、令和五年十月一日から施行する。

附 則(令和6年7月10日農林水産省告示第1360号) この告示は、令和六年八月九日から施行する。

附 則(令和7年8月28日農林水産省告示第1299号) (施行期日)

- 1 この告示は、公布の日から起算して三十日を経過した日から施行する。 (経過措置)
- 2 この告示の施行の際現に肥料の品質の確保等に関する法律第四条第一項、第三項若しくは第四項又は第三十三条の二第一項の規定による登録を受けている肥料については、この告示による改正後の昭和六十一年農林水産省告示第二百八十四号の規定にかかわらず、この告示の施行の日から起算して三年を経過する日までの間は、なお従前の例によることができる。